

秘

在英間、雜感

陸軍少將 二宮治重

特別
又6
8490
1806
早稻田大学図書館



在英閩雜感內容目次

第一軍事之關云云事項

- 一 英軍之既往與現在
 - 二 國軍誘敵、施設、準備、繩外之根本方針、確立
 - 三 兵器器材、概況
 - 四 軍、機械化
 - 五 軍隊訓練、特色
 - 六 軍隊學校等設備、特色
 - 七 國土、防空
 - 八 空軍、陸海軍作戰用航空部隊、關係
 - 九 將校、住宅、日用品、供給及子弟教育、便宜
- 第二國內事情、若干
- 一 產業及財政、現況
 - 二 勞働問題

- 三 紳士階級ノ堅實ト其子弟ノ教育
- 四 國民ノ軍事及軍人ニ對スル態度

第三全英帝國ノ現況

- 一 一般ノ情況
 - 二 本國ト自治領トノ關係
 - 三 印度ノ統治
 - 四 本國當局ノ海外諸領土ニ對スル丹心
 - 五 埃及ト英國トノ關係
- 第四最近ニ於ケル英軍ノ重要ナル對外關係ノ若干
- 一 對支ノ對露關係
 - 二 對米關係
 - 三 對日意情

終

在英間ノ雜感

昭和三年三月七日參謀本部ニ於ケル
二官少將講話要旨ノ綜合

命ニ依リ英國ニ関スル御話ヲ致シマス英國ノコトハ皆様既ニ御存シノコトデアリマス又私モ在英間ニ要ト思ヒマシタ
事項ハ其都度筆記報告ヲ呈出シテ置キマシタノテ今カラ申上ルコトニハ何モ耳新ニキコトハナイト存シマスカ在英ニ年
間所感ヲ纏メマシテ其中テ重要ナリ或ハ參考トナルト思ヒマシタ
諸点ニ付綜合的報告ノ意味テ御話スルコトニ致シマス
今一ツ御断リ致シテ置キタイト思ヒマスコトハ私ノ英國ヲ出發
致シマシタハ昨年ノ八月三十一日テアリマシテ其後ノ變化ニ
就テハ存シマセヌテ話カ大分古イト思ヒマス從テ御話申
上ル中ニハ或ハ眞ノ現狀トハ違フコトカアルカモ知レマセヌ

此點ヲ豫メ御断リ致シテ置キマス

第一 軍事ニ関スル事項

一、英軍ノ既往ト現在
昔、英國陸軍ハ將校ニハ貴族、富豪、道樂息子、下士
以下ニハ失業者カ勞働ノ嫌、ヒナ下層民ノ子弟ノ入ル處ノ
遊場ト相場カ極ツテ居リマシテ元來ノ素質モ惡ク軍ノ
組織モ不良テ殊ニ訓練ニ至リマシテハ今日ノ目カラ見レハ殆
ト訓練ト名ノ付ク様ナコトハヤツテ居ナカクツテアリマシタカ
南阿戰爭テ目カ醒メ尋テ日露戰爭ニ依テ大ニ刺激サ
レテ軍ノ編制、裝備、訓練ニ至ル迄大改革ヲ行ヒ漸ク
近代軍トシテノ形ヲ備フルニ至ンテアリマス 夫レデモ歐洲
大戰前マデハ未ダヒドイモノデアリマシタ 私ハ丁度大戰直
前ニ隊附ヲ致シテ居リマシタガ一般ニシテラテ戰鬥員トシテ
幹部、兵卒ノ能力ハ甚タ劣リ訓練ノ如キモ多少ハ終日

時ニ數日連續ノ演習モヤリ又夜間演習モヤツテハ居リマシタレ殊ニ所謂先覺者ハ「覺醒」面目ノ革新ヲ叫ビテ居リマシタカ軍隊デハ矢張り昔ノ習慣カ残ツテ居テ普通ノ日ハ教練ハ午前中ニ切リ上ゲテ午後ハ大抵「スポーツ」デ暮シテ居ツタデアリマス

然ルニ今回參ツテ見マスト万事カ今ク衰ツテ居マシテ大戰前ト今日トヲ較ヘマスレハ眞ニ隔世ノ感アリト云フ實感カ致シマシタ紀律モ正シク中央部ノ意思モ能ク軍隊其他各方ニ徹底シ凡テカ實戰ヲ目標トスル眞劍味カ有リ又大戰前ニハマラナシタ檢閲モヤツテ居リマス殊ニ軍隊ニ於テ下級者ノ上級者ニ對スル態度ハ却ツテ我軍ニヨリハ勝ツテ居リハシテイカト思ツタ程デアリマス

二國軍諸般ノ施設ノ準備スルヘキ根本方針ノ確立

歐洲大戰直後英軍ハ將來戰ニ對スル準備ノ爲國軍諸般ノ施設ノ準備スルヘキ主義方針ヲ如何ニ定ムヘキヤニ関シ研究シタテアリマス當時ノ議論ハ「陣地戰ヲ目標トスヘキヤ運動戰ヲ目標トスヘキヤ」ニ分レ數年ニ亘リテ討究シ實驗モシテ遂ニ「運動戰」ト云フコトニ決着シ「運動戰」ヲ將來戰ノ目標トシテ國軍ノ編制ノ裝備ノ訓練ヲ般ノコトヲ決行實施スルコトニ定メタテアリマシタ此ノ點ハ私ニ着任シマシタ當時ニモ可ナリ能ク徹底シテ居ル様ニ認メマシタ右ノ如ク英軍ハ將來戰ノ目標ヲ運動戰トハ定メマシタカ國際關係ノ實情ト殆ト世思ノ各地ニ跨リ其領土乃至勢力範圍ノ存在スル關係トニ鑑ミ豫想敵國乃至豫想戰場ニ関シテハ一切定ムコトナク世思ノ何レノ地ニ於テモ亦何レノ

國ニ對シテモ交戦ニ應スルノ準備ナカルヘカラスト云フ方針ヲ取ツテ居タノデアリマス然レ共實際問題トシテ是テハ何等具體的ノ施設ヲ進ムルコトヲ得マセヌテ各人勝手ニ重點ヲ想定シマスカラ目標ハ同シク運動戦テモ各人胸中ニ描ク豫想敵軍ノ素質特ニ其裝備ニ大ナル差アリ又豫想戰場ノ地形特ニ交通状態及氣候ニモ甚シキ差ガアリマスカラ中央部ノ施設容易ニ決セヌ過々決定スル事項アレハ或ハ矛盾撞着或ハ強ヒテ諸方面ヲ要求ニ應ジテ折衷セントスル為中途半端ナモノトナルト云フ有様デアリマシタ又軍隊ニ至リマシテハ各團隊長ク勝手ニ豫想敵ヲ胸中ニ描イテ之ニ對スル訓練ヲ致シマスカラ之又各隊區々巷々テ甚ダ統一ヲ缺イテ居マシタ

右ニ對スル訓練聲漸次高マリ一昨々年（一九三五年）秋天下

大演習直後ニ此聲一層熾トナリ尋デ一昨年春參謀總長ヲ始メ參謀本部ノ要職ニアル人々前後ニテ更迭ヲ見マシタ始メテ國軍トシテノ根本方針ヲ確定シ之ヲ全軍ニ傳達シタノデアリマス其方針ハ英軍ハ自軍ト同等ノ裝備ヲ有スル敵ニ對シ運動戦ヲ行フコトヲ基礎トスルコトニ定メタルモノデアリマシタ豫想戰場ハ勿論歐洲デアリマス即チ軍隊ハ全然此基礎ノ下ニ平素ノ訓練ヲ行ヒ又中央部モ之ヲ次テ主ナル作戰準備ノ目標トシ只其間中央部ノミノ考慮トシテ他ノ作戰地ニモ應スルノ研究ト計畫トヲ爲シ且或程度ノ準備ヲモ爲スト云フニアル様ニ推測セラレマス

以上、如クシテ英軍ハ大戰後八年ニシテ國軍ノ編制裝備訓練等將來戰ニ應スル為、諸準備ノ基礎タル根

本方針ヲ確立シテテアリマス此方針善悪適否ハ別ト
シマシテ此方針確立後從來未決ノ重要事項ヲ着々決定
ノ氣運ニ向ヒツ、アルコトハ看過スヘカラサル事實テアリマス
今一ツ英國軍ノ全般ニ通ル重要ナル主義方針ハ「戰勝爲
ノ最重要ノ因子ハ敵ノ意表ニ出ルコト云フコトテアリマス
敵ノ意表ニ出ルコトヲナケレバ中々勝利ハ期セラレナイト常ニ
高調ニテ居リマス此點ハ中央ノ用兵部ニ於テモ軍政部
ニ於テモ亦技術部ニ於テモ一貫セル主義方針テアリマス
軍隊練成上ノ最重要モ亦之ニ存シテ居リマシテ國軍ノ
隅々テ此點ハ能ク徹底ニテ居ル様ニ見度ケマシタ
參謀本部々各軍管區司令部ハ年々必ス何カ新奇
ノ考案ノ演習ヲ計畫シテ居リマス此部隊ノ演習ヲ
見テモ其計畫及軍隊ノ動作ニ能ク此點カ現ハレテ居

リマス又陸軍省ハ軍部内ト云ハズ部外ト云ハズ軍用
器材ノ新發明、新工夫ヲ大ニ奨勵シ且多額ノ豫算
ヲ新兵器ノ研究費ニ當テ、居リマス、年々新ラシキ考
案カ出テ來ル様テアリマス
右ニ關スル具體的事項、若干ハ後ニ關係事項ト共ニ
述ブルコト、致シマス

三兵器器材概況

現在英軍、軍隊供用兵器、航空機材、對航空兵器材、自動車應用兵器(戰車、自動車牽引若くは搭載)
ハ殆ト悉ク大戰間使用ノモノデアリマシテ何等新奇モノ
ヲ見マセヌカ之ヲ次テ直ニ英軍ニ新式兵器ヲ考案ホ
ント断ズベキモノデアリマセヌ。ト申スハ大戰後英軍、
之ヲタル兵器器材ノ研究ト整備ト平時供用ト關係ヲ
律スル方針ガ決ハラシムルカデアリマス此方針ノ的確ナルモ
固ヨリ知ルコトヲ得マセヌガ諸方面ヨリ觀察ニマシテ其骨子
ハ次ノ様ナモノデアロウト思ヒマス
各種兵器器材ノ改良進歩特ニ其創意、新工夫ニ人材
ヲ集メ經費ヲ惜ムシテ極力努カヌルモ之ニ依リテ満足ナル

結果ヲ得タルモノハ其都度假制式トシテ若干ノ見本(製造) 閉スル要項ト共ニ之ヲ保存スルニ止メ更ニ改良創意ノ研究ヲ 繼續ニ必要ニ付得ザルモノハ外ハ満足スベキ新式品ト雖 モ平時多数ヲ製造セズ又新式兵器ノ實驗ニ特別ノ 部隊ヲ指定シ若クハ特ニ實驗部隊ヲ臨時編成シテ 極秘ノ裡ニ之ニ當田ラシム

2. 軍隊供用兵器器材ハ既ニ陳腐ニ屬シ現用兵器トシテ 價値ナシト認ムルカ如キ種類ノモノカ若クハ漸次使用減耗 シ在庫品モ空虚トナリ新陳交換ノ為ニ新ニ製造ヲ 要スルカ如キ種類ノモノニ限り新式品ヲ製造供用スルモ其 他ノモノハ依然現用品ヲ使用セシム

3. 右ノ如キヲ以テ有事ニ方リテハ最初ノ動員ニ於テハ先ヅ現 在ノ供用品及セト同式ノ貯藏品ヲ以テ軍ヲ裝備シ

之と同時に平時ノ計畫ニ基キテ工業動員ヲ實施シテ其當 時マテニ研究濟ノ各種新式品ヲ急遽製造シ此結果ヲ 待ツテ速ニ軍ヲ裝備シ一新ス

但シ特種兵器ノ若干ハ平時ヨリ亦クニ製造格納シ閑戦ト 共ニ奇襲的ニ之ヲ使用セシムトテ企圖シカルク如ク推測セラルモノ 其内容明カトラス

右方針ノ理由トスル要點ハ左ノ様ナモノテハナイカト思ヒマス
1. 新兵器ヲ外國人ニ秘シ有事ニ方リ奇襲的ニ之ヲ使用シテ敵 ノ意表ニ出デントス

2. 科學ノ進歩ハ實ニ日進月歩ナリ今日最新式兵器トシテ満足 スヘキモノモ數年ニシテス満テ感スルニ至ルハク加之科學ノ 進歩ニ伴ヒ供用品及戰用品ノ全部ヲ絶エズ更新スルコ トハ到底國家財政ノ許ササル處ナリ

3. 英軍ノ大戦終局時ニ有セル兵器器材ハ實ニ多量ナリ
此内ニハ今日稍々舊式ニ屬スルモノナキニアラサルモ尙現用兵
器トシテ相當ニ役立ツモノ多ク今直ニ之ヲ舊式品ナリトシテ
捨ツルハ國家ノ財政上ヨリ見テ忍ビ得サル處ナリ故ニ全然
陳腐ニ屬シ現用兵器タルノ價值ナキモノハ更新ノマシヲ
得サルモ然ラサルモノハ多少ノ不利不便ヲ忍ンデモ尙之
ヲ使用ス

4. 英國ノ工業能力ハ有事ニ方リ急速ニ新式兵器ヲ製造シ
且其後補給ニ関シ畧々軍部ノ要求ヲ満スコトヲ得
故ニ前述ノ方針ハ有事ニ方リ軍部ノ企圖ヲ甚ク阻害
スルコトナク且外國ニ我新兵器ヲ秘匿スルヲ得ルト共ニ最モ
ヨク科學ノ進歩ニ追隨スルニ切モ尤モ經濟的ナリ
右方針ハ英國ノ如ク民間ニ大工業力ヲ擁スル國軍ニ適

當ナランモ民間工業力貧弱ナル國軍ニアリテハ斯ク單簡
ニハ參ラス然シ共新兵器ノ創意安ホ出トセク奇襲的使用
ト科學ノ進歩ニ追隨スルコト、國防上ノ要求ニ及セサル限
經濟的ニ整備スルノ四點ハ固ヨリ今日何人ノ頭ニモ浮ブ有
リ振レタル考テハアリマスガ平凡ナルダケニ又兵器ノ研究
整備上尤モ重要ナル原則タルヲ失ハナイト思ヒマス

四軍・機械化

英國テ軍ノ機械化ト云ヒマスハ地上軍ノ行進速度又機
動力ヲ増大スル為ニ人足若クハ馬足ニ代フルニ自動車應用
ノ機械ヲ以テセントスルノデアリマシテ軍ノ自動車化ト云フヲ寧
ロ的確ナル譯語トスルカモ知レマセン

此ノ機械化ニ関シマシテハ過去數年間研究ト實驗ヲ重ネ
マシテモ容易ニ決定ヲ見マセナンダガ前述將末戰準備為
ノ根本方針、確立ト共ニ昨年度此ノ方針ニ基ク的確ナル實
驗ヲ行ヒマシテ昨年春騎兵砲兵ニ関スルモノヲ決定シ更ニ昨
年度機械化兵團ト稱スル實驗部隊ヲ特設シテ夏秋
ノ候專念研究ヲ實驗ニ從事シテ居リマシタカラ本年度或
ハ明年度ニ騎兵砲兵以外ノ兵種ニモ相當ノ改編ヲ實行
スルモノト思ヒマス

右實驗兵團トシテ昨年度参加シタル部隊ハ全部自動車
編成トシテ左ノ通りデアリマシタ

機関銃大隊(歩兵大隊ヲ改編セルモノ
ニシテ附三六ヲ有ス) 一個

戦車大隊(内容不明)

之ニ八人用及二人用豆戦車一隊ヲ加フ

装甲自動車中隊

野砲兵大隊(野砲三中队)
(三榴中隊) (搭載式一標) 一個

九吋四輕榴彈砲中隊(搭載式ニシテ對戰車
砲代用トス) 一個

野戦工兵中隊(架橋隊) 一個

通信隊(無線) 一個

以下昨年度研究實驗及議論ノ跡並昨年度豫算ノ説
明ニ於テ陸軍大臣ノ述べタル要點ヲ綜合シ機械化ニ関スル各
兵科ノ情況ヲ約説スルコトニ致シマス

(一) 騎兵

騎兵ハ大戰後最も議論ノ多カリシ兵科デアリマシタ即チ方
ニ馬ハ近キ將來ニ戰場ニ其影ヲ没スベキモノデアル騎兵ヲ
全廢シテ遠距離搜索ニ飛行機又装甲自動車ヲ用
ヒ中距離近距離搜索ニ輕戦車豆戦車ヲ用フベク又
傳令勤務ニ電氣又視號ノ諸通信又ハ二輪自動車或
自轉車ヲ用フベク事足レク更ニ快速ノ戰鬥兵團トシテハ
快速戦車快速自動車牽引砲兵及自動貨車運搬
ノ歩兵(機関銃ヲ主トス)ヲ用フベク騎兵ヨリモ一層有効ナルベシ
ト云フ機械化急進論者アリ 他方ニ騎兵ハ歐洲戰場
ニ於テモ運動戰ニ今日尚大ニ活動シ得ベク況ニ歐洲以外
ニ於テハ極メテ有効ナリ大戰末期「エドワード」騎兵團ノ
「バレストアイ」ニ於ケル戰勝又近クハ奉天西南ニ於ケル郭松齡軍

一對スル張作霖軍、騎兵團ノ活動ハ次ラ之ヲ證スルニ餘リ
英軍ノ騎兵ハ大戰後縮少ニ縮少ヲ重ネ今ヤ一兵モ減シ得
サルノ最少限度ニ到達セリト高調スル保守論者アリ西々
相峙シテ讓ラズト云フ有様アリマシタカ陸軍省ハ調査委
員ヲ任命シテ之カ調査研究ニ從事セシメ其結果英軍ノ
將來戰場トナルマモ知レズト思ハル、地方ニ戰車等ノ為ニ大
障碑ナルモ騎兵ノ為ニ通過可能ノ河川少カラズトノ理由ニ
主トシテ快速戰鬥兵團トシテ現在騎兵團ヲ存置スルニ
決シ且歐洲ニ於ケル使用ヲ顧慮シテ騎兵ノ火力及機動力
ヲ増大スルヲ必要トシテ昨年度左ノ如キ改編ヲ加ヘマシタ

- (1) 一聯隊從來ノ機關銃(重)八銃ヲ十二銃ニ増加ス
- (2) 聯隊機關銃隊(重)ノ從來ノ騾馬式ヲ野外横行自在ノ
輕自動貨車ニ編成ニ改ム

(附記) 英軍騎兵ハ各聯隊ニ重機關銃隊ヲ有レ此外ニ
各中隊ニ輕機關銃一隊ヲ有ス

- (3) 聯隊ノ行李及炊爨車、從來ノ乘御式馬車輜編成
ヲ前項同断ノ自動貨車ニ編成トシ且各人各馬ヨリ其携
帶品ノ若干ヲ減シテ之ヲ小行李ニ積載スルコト、之ニ依
リテ各馬ノ負擔量ヲ約三貫四百目輕減スルコト、セリ
- (4) 野外通過ニ適スル装甲自動車ヲ制定シテ之ヲ騎兵師
旅團ノ編成内ニ入ル

(二) 砲兵

- 昨年度砲兵ニ編成ヲ加ヘタル要點ハ次ノ通りアリマス
- (1) 騎砲兵及師團用野砲兵(野砲及十二榴混成)ハ現制ノ
馬曳編成ヲ持續ス
- (2) 軍、軍團別當用野砲兵(野砲及十二榴混成)及野戰重

砲兵(十五榴及十加)ハ悉ク自動車牽引式トス

(3) 重砲兵即チ攻守城砲兵ニ相當スルモノハ從來悉ク足ナキ
独立中隊ニ二個ナリシカ此内十二中隊ヲ左ノ如ク改編ス

(A) 五中隊ヲ野戰重砲兵(砲種ハ必ス同シ)ニ改メテ自動車
牽引式トス

(B) 三中隊ヲ高射砲兵ニ改メテ自動車搭載式トス

(C) 四中隊ニ運動性ヲ與ヘシラ以テ重砲大隊(砲種不明)ヲ
編成シ野戰用トス

即チ師團砲兵ハ他兵種ト常ニ行動ヲ共ニスルノ必要上之
ヲ機械化スルモ大ニ効テ又歐洲ノ戰場ニ於テモ師團
砲兵トシテハ歩兵トノ協同上馬曳トスルヲ却ツテ利益ナリトシ
テ現制ノ馬曳編制ヲ持續スルコトナレシニ及ビ軍、軍
團砲兵ハ所望ノ時機所望ノ方面ニ最モ迅速ニ砲兵、重

點ヲ成形スルノ必要上其運動性ヲ大ナラシメントシテ悉ク之ヲ
自動車編成トシタルモノデアリマス

殊ニ從來運動性ヲ有セザリシ攻守城用重砲ノ過半数ニ
大ナル運動性ヲ與ヘテ有効ニ運動戰ニ使用シ得ルヲ改
編ヲ行ヒシハ其將來戰ニ對スル準備ノ為ノ根本方針、徹
底ト云フベキデアリマセウ

(三) 歩兵

歩兵ノ機械化ニ就テハ一昨々年迄ハ歩兵、人馬材料、車輛
ヲ采ク大型自動車(二輛ニ武装兵員十ラハ二十五名、馬十ラ
ハ四頭)ニ搭載シテ運搬スルコトヲ研究シ同年秋、特別大演
習ニ完全ナル歩兵一旅團ニ此ノ編成ヲ取ラシメテ實驗ニ供シ
ミシカ各種研究ノ結果此方式ハ大範圍ニ放ケル兵力ノ移
動轉用等戰畧上、使用ニ有利ナルモ戰術上、使用ニハ

不利ナリトノ結論ニ到達シ一昨年度ハ此方式ニ依ル研究ヲ中
止シ騎兵ニ就テ述べタルト同様即チ機関銃、小行李及炊爨
車ヲ野外横行自在ナル輕自動車編成トスル方法(之ニ依リ
步兵各人ノ負擔量約一貫匁ヲ輕減ス)ニテ實驗シ良好ノ成績
ヲ收メタリト稱セラレマシタガ昨年度ニ未ダセガ改編ヲ決
スルニ至リマセンデレタテラテ前述べセシ機械化兵團實驗演
習ノ結果ヲ待テテ決定スル考デアロウト思ヒマス
步兵ノ機械化ニ就テモ極端ニ急進論者カアリマシテ裸體
テ敵火ヲ浴ビツ、敵ニ近クナド、云フコトハ將來戰ニアラレバカ
ザルコトナリトテ戰車ヲ能ク主張スルモノモアリマスガ斯ノ
如キ説ヲナスモノ未ダ極メテ少數アリマス
今後步兵ノ改編ニ如何ナル決定ヲ與フルカハ勿論不明デアリ
マスガ二宮一個ノ觀測デハ依然步兵ヲ以テ軍ノ主兵トシ扱

步兵ニハ昨年改編シテ騎兵ノ機械化ニ似ル程度トシ若
干ノ步兵大隊ヲ機關銃大隊ニ改編シテ之ヲ純然タル機械
化部隊トスルト云フ位ガ落テハナイカト思ヒマス
但シ戰時ニ大型自動車縱列ノ相當數ヲ軍ノ後方ニ準備
シ必要ニ際シ之ヲ以テ大範圍ノ兵力移動轉用ヲ行フコトハ
有ラウト思ヒマス

四. 戰車

現用ノ戰車ハ一部大戰末期ノ二十噸乃至三十噸ノ戰車モ
アリマスガ主力ハウチカリス輕戰車デアリマス舊式戰車ハ軍
ニ廢物利用的ニ使用スルニ過キナイト思ヒマス
ウチカリス輕戰車ハ十二噸及十四噸ノ二種デ共ニ装甲ハ小銃
彈ニ抗スルヲ度トシ武装ハ輕砲及重機關銃デアリマス
最大速度ハ路上ニ時間三十五哩(甲吉米)乃至三十哩(甲八吉米)ト

云フテ居リマス此戦車ノ目的ハ機動ニ用フルカ主テ攻撃正面
ノ歩兵ノ進路閉切ニ用フルハ從テアリマシテ殊ニ運動戦ニ於テハ
常ニ側方ニ使用シ敵ノ側背ヲ衝クニテ居リマス又屢々
此種戦車ト自動車砲兵ト自動車運搬ノ歩兵トヲ
以テ臨時快速兵團ヲ編組シス是且迅速ニ敵ノ側背ヲ衝
カシメテ主カノ戦鬪ヲ容易ナラシムル如ク使用シテ居マス
一昨年一人用及二人用ノ小型戦車(タンケットト云フテ居リマス
以下之ヲ豆戦車ト畧稱シマス)ガ現ハレマシタ三、四噸位ノモノデ
装甲ハウチカース輕戦車程度テ武装トシテハ重機関銃
ヲ有スルミデアリマス速カハ路上ニ一時間十五哩(十五吉米)程度
ト云フテ居リマス此豆戦車ハ歩兵ニ協カスルガ主目的テ云
ハ歩兵ノ重機関銃ニ鎧ヲ着セテ走ラスト云フ意味ノモノ、操テ
アリマス運動戦デ歩兵ニ附シ突撃及陣地内ノ攻撃ニ至極

便利ノ様デアリマス然レ何分輕クテ小サイモノデアリマスカラ
敵カ相當堅固ニ防禦設備ヲ爲シアラバ直グト其障碍
物或ハ壕ナドニ引ツ懸ツテ行動不能トナリマス故ニ堅固ナル
陣地ニ對スル攻撃ニアリテハ先ツ重大ナル戦車ニテ道ヲ閉キル
上デナイト豆戦車ハ十分ニ敵陣地内ニテハ活動シ得ナインデ
アリマス又豆戦車ハ近距離搜索ニ用ヒテ至極便利デアルト
云フテ居リマス
一面煙幕ノ構成用戦車ヲ見マシタ戦車ノ後尾カラ濃厚
ナル煙ヲ噴キツ、敵前ヲ横ニ走ルデアリマス一トニテ相當濃
厚ナ煙幕ヲ作り得マシガ遠見ニマシタ處デハウチカース輕
戦車ニ似テ型デアリマシタ此目的ノ戦車ニ野砲彈ニ抗
シ得ル装甲ヲ與ヘネバ實用ニハ適シナイト思ヒマシタ
又野砲彈ニ抗シ得ル装甲ヲ與フル重大ナル戦車ノ考案

中デアルトノ噂モアリマス其重量ハ六、七十噸位ト云フ話デ
アリマス其眞否ハ判明シマセヌカ之ガ事實デアリトスレハ固
ヨリ其目的ハ堅固ナル陣地ニ對スル突撃手ノ直前攻撃手
歩兵ノ正面ニ於テ眞先ニ進ミテ荒亂ゴシテスルノデアリマセウガ
六七十噸ト云フ重量ノ車ヲ戰場ニ運ブハ歐洲デモ殆ド凡
テノ橋梁ニシテ堪ユル強固法ヲ施サネバナラヌモノト思ヒマス
戰車萬能論者ハ將來ノ戰車ハ海上ノ軍艦ニ類似スル各
種ノ型ヲ有セザルヘカラズ少クモ戰艦ニ匹敵スルモノ巡洋艦ニ
匹敵スルモノ及驅逐艦ニ匹敵スルモノヲ要スト云フテ居リマ
スガ遠キ將來ハイザ知ラズ英軍ノ現状ハ未ダ前申シ述
ベテ程度ノ研究ハ過キマセシ
右ノ外戰車ノ親類ニ装甲自動車ガアリマス從來ノ
装甲自動車ノ車輪ハ普通ノ乗用自動車ニ似タモノデ

凡テ道路上ノ運行ニ限ラレテ居リマシタガ之デハ不便ナリト
テ目下野外横行可能ノモノヲ研究中デアリマス此種ノモノ
カ出來上レバ装甲自動車ト云フテモ快速ナル輕戰車ト
選ブ處ガナリマス

(五) 其他

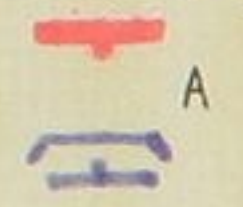
無線通信班ニハ已ニ自動車ヲ用ヒ居リ又無線ニアリテモ
自動車編成ノ砲兵大隊ニハ半軌道式ノ小型ノ通信自
動車ヲ使用シテ居リマスカラ將來通信部隊ノ機械化
ハ益々進ムヘク又工兵ノ機械化ハ未定ナルモ少クモ戰車其
他自動車應用ノ重車輛ノ為小流溝渠等ニ應急
ノ通過設備ヲナスヘキ工兵ニハ遠カラス機械化ヲ見ルコ
トノ思ヒマス
大行李、輜重ハ既ニ凡テ自動貨車ニ編成トナツテ居リマス

小行李、漸次機械化シテ、ルコトモ既述ノ通りデアリマス
 之ヲ要スルニ英軍ノ所謂機械化ハ國軍ノ兵力小ナルカ故ニ
 其機動カラ大ニシテ、其小兵ノ不利ヲ補ハシコトヲ企圖マ
 シト小兵ナルカ故ニ其機械化ノ實現比較的容易ナルト
 自國ノ自動車工業大ニ發達セルト依リテ來レルモノデアリマ
 シテ現情勢ヲ以テスレハ今後數年間ニ更ニ一段ト其進
 化ヲ見ルコト、豫想致シマス

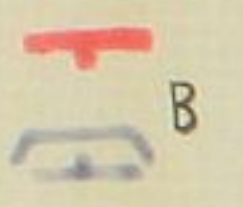
五、軍隊訓練上ノ特色

英軍軍隊訓練上ノ特色ト私認マシタ點ハ次ノ通りデアリマス
 (1) 極端ニ機動ヲ獎勵シテ敵ノ意表ニ出ヅルニ努ムルコト
 (2) 兵力及編組ヲ異ニスル敵ニ對スル戰鬥
 (3) 新戰法、案出及新兵器ノ實驗
 (4) 騎兵ニ乘馬戰ノ獎勵
 右ノ實例ハ多數見聞致シマシタ其最モ顯著ナルモノ若干
 ヲ例証トシテ申上マス

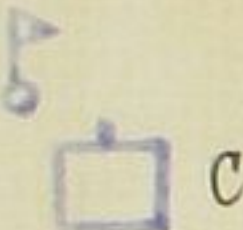
(1) 例



A



B



C

敵ヲ擊攘スキ任務ヲ有スル某師團(英軍師團ハ三旅團ヲ成シハ共ニ優勢ナル西方面、敵ニ對シ其各約三分一ノ兵力ヲ以テA及Bニ於テ敵ヲ支ヘ他、約三分一ヲCニ控置ス)

右態勢ニ於テ某日朝師團長ハ軍ヨリ其日正午頃左ノ増援ヲCニ到着セムベキ通報ヲ受ク

騎兵一聯隊

自動貨車搭載、機関銃一隊

自動車牽引式砲兵一大隊

歩兵一旅團ヲ運搬スルニ足ル目動貨車縱列

依テ師團長ハ遠キBノ敵ニ對シ依然守勢ヲ取リ近キAノ敵

ニ對シ本夜中ニ能ク限リノ兵力ヲ集メ明拂曉ヨリ攻勢ヲ

取ルニ決シ概畧次ノ處置ヲナセリ

(一) 騎兵及自動車機関銃隊到着共直ニ之ヲBニ増加ス

(二) 其他ハ晝間兵力ノ移動ヲ行フコトナク日没ヲ待テ自動貨

車縱列ヲBニ送り同地ニ在ル歩兵一旅團ヲニテ其守備ヲ騎

兵及自動車機関銃隊ニ讓ラシメテ之ヲ自動貨車縱列

ニ依リテ抽出ス

(三) Cニ在ル師團ノ約三分ノ一及増援ノ自動車牽引砲兵六隊

並前項ニ依リテBヨリ抽出シタル歩兵一旅團ヲ本夜中ニAニ加
ヘ明拂曉ヨリ攻勢ヲ取ル

(2) 例

混成歩兵一大隊ト混成歩兵一旅團トヲ對抗前進セシメ日没

約一時間前ニ遭遇セシム

混成旅團長ノ處置緩慢ナリシ為遭遇戦ヲ見ルニ至ラス

シテ日没トナル

夜間混成大隊長ハ歩兵一甲隊ヲ舊位置ニ殘シテ行動ヲ

秘匿セシメ主力ヲ次テ後方ニ退テ陣地ヲ占領ス銃監ハ

此夜機関銃三六銃及戰車一甲隊ヲ大隊ニ増加ス

翌拂曉後混成旅團ハ少數ノ敵ヲ驅逐シテ前進シ混成大

隊ノ新陣地ニ衝突シテ之ヲ攻撃手ス

混成大隊ハ秘ニ増加機関銃ヲ陣地ノ兩翼ニ配置シ

敵ノ近接ヲ待テテ主トシテ砲兵及機關銃ヲシテ敵ヲ猛射
セシメ尋テ戰車中隊ヲシテ一翼倒リ出テ、敵ヲ側面ヨリ
衝カシメ敵ノ混乱ニ乘ジテ歩兵大隊ヲ以テ攻勢ニ轉セリ

(3) 例

混成旅團ト騎兵旅團ニ戰車一大隊ヲ附シタル部隊トシテ遭
過戰ヲ實施シタルヲ見學シタルコトガアリマシタリ之ニ関シテハ
其節詳細ノ報告ヲ呈出シテ置キマシタカラ茲ニ省畧致シ
マス

前述ノ(1)(2)ノ例トシテ申シ上ゲマシタリハ特ニ著シキ例ヲ擧ゲ
タデアリマスガ其他デモ皆幾分カクニ類シタ演習ヲ實施シテ居
リマシテ在英ニ年間私ハ兵力編組ノ略々同等ナル兩軍ノ對
抗演習ト云フモノハ一回モ見聞シタコトガアリマセン又所謂「攻
防演習」ハ勿論ノコト陣地戰ニ類スル演習モ見聞シタコトハ

アリマセン殊ニ驚キマシタリハ工兵學校作業場ノ片隅ニ以前
ニ作シタ堅固ナル陣地一部ノ模範ガアリマスガ今日デハ堆
土ハ崩レ壕ハ半埋シ一面ニ草莽々々有様デアリマス工兵
學校ハ現時運動戰ニ要ナル課目ノ研究ノ教育ト技術部
ト連繫シ工兵新器材ノ實驗ノ力主ノ様ニ感セラレマシタ

(4) 就テ

歐洲大戰前英軍騎兵ハ徒歩戰ニ重キヲ置キ當時私共ハ
英軍騎兵ハ乘馬歩兵ナリト云フテ居リマシタ其後大戰間
英軍主力ノ居リマシタ西歐戰場ノ情況ヨリ推測シテ戰
役英軍騎兵ハ乘馬歩兵的傾向ハ更ニ層濃厚トナシタモ
ト思フテ行キマシタ處實際ハ全然及對テ盛ニ乘馬戰ヲマ
ツテ居リマス私個人トシマシテモ亦騎兵隊ニ隊附シマシタ我駐
在直ノ見タトコロニ依リマシテモ徒歩戰ハ殆ト演練セズ殆ト

乘馬戦計リ演練シテ居ル様デアリマス殊ニ騎兵ニ輕戰車ヲ
附シテ依テ歩兵ニ對シテ乘馬襲撃ヲ實施セント研究工
夫ニ努クメテ居ルノデアリマス
然ルニ他方ニ於テハ既述ノ如ク騎兵ニ多クノ機關銃ヲ附シ其
火力ヲ増加シテ居ルノデアリマス
右英軍騎兵ノ相及スル西面ノ情勢ヨリシマニテ私ハ英軍騎
兵ハ其目標トスル運動戰ニ於テハ敵ノ弱点タル側背ヨリ
兵種ノ何名ヲ問ハス為ニ得ル限リ乘馬攻撃ヲ行ハントシテ主
トシテセカ演練ニ努クムト共ニ或ハ敵ニ先ニシテ要點ヲ占領
シテ後着スル歩兵ヲ待ツトモ或ハ一時我歩兵戰線ノ間隙
ヲ充填スルトキ等一時的防勢ニシツテ要スル場合ヲ顧慮
シテ其火力特ニ機關銃ノ増加ヲ圖ルモノニカラザルハト思ハ
フノデアリマス

六軍隊學校等設備ノ特色

之ヲ言ヒテ云ヒマスレバ容レ物即チ建物ハ實用ニ足ラ度トシ
最少限度ノ經費ヲ用フルニ止メ其内容就中教育設備ニ
最大ノカト經費トヲ用ヒテ居ルト云フコトデアリマス
右ノ點ハ實ニ能ク徹底シテ居リマス只倫敦ニアリマス近衛
兵ノ兵營丈ハ建築モ可ナリ立派デアリマスカンレデモ建物ヨリハ
内部ノ設備ノ方カ完全デアリマス然シ倫敦デモ所謂「ロレデ
イニグ」式ノモ、ヤス兵營内ニエレベーターヲ取り附ケテアル様ナモノ
ハ全く見レ度ケマセヌ
倫敦以外ノ兵營ノ建物ハ實ニ粗末至極ノモノデアリマス就中
私ノ一番感シマシタノハ砲兵學校ト戰車中央學校トデアリ
マス砲兵學校ハ「ソリスベリ」演習場ノ真中ニ在リマシテ建
築ハ凡テ粗末ナ木造板壁ノ平屋建デアリマシテ外觀ハ

陸軍大學校ノ北ノ部分ニ震災後臨時増築セラレタ木造ノ
假校舎ヨリモ尚ホ粗末ナ様ニ見テマシタ然ルニ内部ノ
教育設備ハ私共ニ教シテ見セタイ處モ大分アリマシタが見マ
シタ處丈デモ完備シタモノデアリマシテ大戦間ニ使用セシモノ
及現用ノ各種野戦用火砲(外國軍ノ火砲モ若干アリ)ヲ取リ
揃ヘテ陳列シタル處アリ又或講堂デハ試射ノ豫習ヲ行フ
設備ヲナシテ地形地物ヲバ、ラマシ式ニ作り其内ニ教官ノ隨意
ニ目標ヲ起伏シ之ニ對スル學生ノ射撃ヲ令ニ應ジテ射彈ノ破裂
位置ヲ小サテ煙ヲ現ハス様ナ仕懸ラシテアリマシタ
支給彈藥モ非常ニ豊富デ當日附近ノ飛行場カラノ飛
行機ノ空中觀測ニ依ル射撃モ行ヒマシタシ又私共ノ希望ヲ求
メテ無試射點觀測射撃手ヲ轉移射撃手ヲモ彈藥ヲ惜
氣モナク使ツテ實施シテ見セマシタ

戰車學校ハ一寸離レテ射撃學校ト操縦學校ト分レテ
居リマス建物ハ大体砲兵學校ニ似タモノデアリマス射撃ハ不齊地
ヲ十哩速力デ走リナカラ三四百カラ五六百米位ノ距離ノ標的ニ
對シテ行フデアリマシテ固定ノ散兵的ノ機關銃的ニ對シテモ
實施シマシタガ高地ノ脚ニ沿フテ十哩ノ速力テ戦車戰車的ニ
對シテ輕砲ノ射撃モ實施シマシタ場所モ誠ニ好適ノ地デ設
備モ完全デ彈丸モ亦驚ク程ニ能ク中リマシタ射撃ノ練習
ハ先ノ室内ノ射撃演習カラ始メルデアリマス其設備ハ海軍
ノ室内射撃演習ノ設備ヲ摸倣シタシテマシンウデアリマスガ厚イ
鐵板ノ上ニ戰車ノ一部ニ輕砲ヲ取リ付ケタモノヲ据エ此鐵板ト床
トノ間ニ高低甚シク不正ノ齒車ヲ取付ケ此齒車ヲ廻シテ高
低不正ノ齒ノ廻轉ニ依リテ鐵板ハ甚シク動揺スルデアリマス故
ニ此鐵板上ニ据エラレタル戰車内ノ輕砲ハ恰モ不齊地ヲ戰車

カ疾駆スルト同じ様ニ動揺シマスカラ實際的ノ射撃演練トナ
ル譯デアリマス

操縦學校ニ大戦中最初ニ考案シタス成功ノ戰車ヨリ逐
次進歩シタル經過ニ從ヒ現用ニ至ル迄ノ各種ノ戰車ノ實物ヲ
陳列シテアリマシタ又兵卒ニ戰車内部ノ機能ヲ教ユル講
堂ノ設備ニ實ニ一驚ヲ吃シマシタ即チ内部ノ各種機能
毎ニツ死實物ノ断面ヲ作りマシテ之レカ夫々運轉スル様ニ成リ
居ル為教育ハ凡テ修業者ノ目カラ入ルンデアリマスカラ非常ニ
便利デアリマス説明ニ任シタ教官ハ此設備ノ完備シテ以來
馬鹿ナラサル普通ノ兵卒ナラニテ月經過セハ完全ニ内部ノ機
能ヲ會得シ得ト云フテ居リマシタ然レ此設備ニ莫大ノ經費
ヲ要シタモノデアリマシテ之ヲ建物ト較ヘマシレハ實ニ綿布デ
美玉ヲ管ニダ形デアリマスガ何物ヲ差シ置イテモ教育ヲ第一
トシ平平時ノ軍隊施設ノ根本義カラ見マシテ誠ニ羨望ニ堪エサル次
等ト痛感致シマシタ

七、國土ノ防空

英本國領土ノ防空施設ハ目下ノ處倫敦ヲ中心トシ北方ハ倫
敦ヨリ北海ニ亘ルヨリス湾附近ニ至ル線ニ又南方ハ倫敦ヨリ英
佛海峡ノ南部ニ亘ルヨリス軍港地方地區ニ至ル線ニ
於テ專ラ佛國ニ對スル如ク準備シテ居リマス其他「グラスゴー」
「エジンバラ」ノ地區ニ飛地的ニ少數ノ本國防禦専用ノ飛行隊
ヲ配置シテ居リマス

國土ノ防空ニ任スル部隊ハ本國防禦専用ノ空軍部隊又平時陸
軍ニ屬スル本國防空専用ノ防空地上部隊デアラス

本國防禦専用ノ空軍部隊ハ結局五十二中隊ニ達セシ計畫
デアリマスが目下完テ居ルハ約三十中隊デアリマス之等部隊
隊ハ空軍中ニ在リテモ陸軍作戰ニ協同スル部隊又海軍
作戰ニ協同スル部隊ト劃然ト區別シ本國防禦空軍司令

令長官ノ指揮ノ下ニ平時ヨリ専念本國ノ防空ヲ目標トシテ
所要ノ施設ヲナシ且研究及訓練ヲ實施シテ居ルデアリマス
平時陸軍ノ防空地上部隊ハ陸軍作戰用ト本國防空専用
トニ種ニ判然區別シ而シテ本國防空専用ノ部隊トシテ目下倫
敦ヲ中心トシテ附近ニ防空旅團ニ個及獨立照空中隊十一個ヲ整備此
ニ對空監視哨及監視哨ト關係機關トヲ結フ通信機關カアリマス
防空旅團ト云フハ旅團司令部ノ下ニ高射砲兵大隊ニ個照空大隊
一個及通信中隊一個ヲ設リセトシテ直接倫敦ノ防空ニ任シ
之照空中隊ハ專ラ倫敦ノ外側ニ活動スル防空用戰鬥機協
カスルデアリマス。又對空監視哨ハ前述「マース」灣ヨリ「ボーツマ」
方地區ニ亘ル海岸ヲ前線トシ其内方ニ相當ノ深サヲ有スル地帯
ニ鱗次形ニ配置セラレ監視哨ト關係機關トヲ結フ通信網
ハ通信者ニ屬スル國用電話網ヲ利用スルコトニナツテ居リマス

以上本國防空専用ノ地上防空部隊ハ自ラ陸軍部隊ニシテ
本國防空司令(陸軍將官)ノ統一指揮ノ下ニ平時ハ陸軍ノ指
揮系統ニ屬スルモ戰時ハ空軍ニ屬スル本國防禦空軍
司令長官ノ指揮ニ入ルデアリマス
以上ハ英本國國土防空ニ關スル組織ノ真ノ概要デアリマスガ之ハ
大戰間ノ苦キ經驗ヨリ得タル苦心ノ結晶デアリマシテ其重要ナ
ル主義トスルニ一ニ点ヲ左ニ申述ヘマス

(1) 空中地上西防空部隊ハ要ニシテ亦モ兩者ノ統一指揮ヲ
必要トスルコト

國土ノ防空ニ任スルモノ、主體カ飛行部隊ナルコトハ勿論ナルモ
之ニ地上防空部隊ノ密接ナル協力ナケレハ到底十分ニ防空ハ出
來ナイ例ハ一都市ニ對スル敵機ノ來襲ニ際シ防空用飛行
機ヲ攻撃セントシテ上昇スルモ空間ヲ迅速ナル速度ヲ活動

スル飛行機ガ常ニ敵機ノ所在ヲ明確ニスルコトハ中々困難
デセガ為ニ晝間デハ友軍高射砲ノ敵機ニ對スル射彈
ノ破裂夜間デハ友軍照空燈ノ敵機ニ對スル射光が見
當ラ付ケルニ一番良イト云フコトデアリマス又防空用飛行
機ノ活動ノ根據地タル飛行場其モノ、防空モ地上防空部
隊ノ援助ニ俟ツコト大ニミナラス空中防空軍ノ理想トスルガ
ラ、敵ノ飛行根據地ノ攻撃ヲ若クハ我カ防護スベキ都市等
ニ對シ來襲ノ企テタル敵機ヲ空中ニ迎ヘテ攻撃セントスルカ
キ積極的防空即チ間接援護ハドウシテモ掩護物ノ
直接援護隊タル有カナル地上防空兵力カ嚴存シテ後顧
ノ憂ヲ無クシテ呉レルデアケレバ思ヒ切ツテマレナイト云フテ居リマス
又右ノ如ク空中地上両防空部隊ノ防空動作ニハ緊密
ナル協同ヲ要スルデアリマス此両者ニ是非共一指揮官ノ下ニ

統一指揮トシテ置カネバ到底有効ナル防空ハ出来ナイト云フテ居リマス

(2) 全國ニ防空モ統一指揮下ニ置クヲ要スルコト
前項ニ述ヘタルハ一局地ニ於ケル空中ト地上ト、西防空部隊ノ統一指
揮トコトデアリマシタガ全國的ニモ統一指揮ノ必要アリト云フテ居リマス
全國土ノ防空ニハ要地毎々夫々相當ノ航空部隊ヲ配置シ
各地方毎々担任區域ヲ分擔セシムルハ云フマデモアリマシカ更ニ之ヲ
全體ヨリ統一指揮ノ下ニ置クヲ要スト云フノデアリマス蓋シ飛行機
カ迅速且偉大ナル運動性ヲ有スト空中戦ニ於テモ所要
ノ時機所望ノ地區ニ空中勢力ノ重点ヲ形成スルヲ要シ之ニ
應スル如キ空中勢力ノ機宜ニ適スル集散離合ハ統一指
揮ノ下デナケレバ絶對ニ不可能ナリト云フノデアリマス

(3) 地方ノ防空ニ其地方ノ人ヲ参加セシムルコト
本國防禦專用飛行部隊中ニハ地方軍飛行隊ヲ混スル

ト、レ既ニ倫敦「コラスゴ」等ニ此種飛行中隊 若干宛ラ
編成シテ又本國防空専用、防空地上部隊ハ全部地方軍
デアリマス等本國防空、空中、及地上、地方軍部、隊ハ其防
空ヲ担任セル地方ヲ編成シテ居ルノゴリマシマス要スル經費大部
ハ國庫ヨリ支出スレテアリマスガ訓練及設備費等一部ハ當
該部隊ノ編成及維持担任ノ州若クハ市ノ地方軍協會賄
テ居リマス又對空監視哨要員ハ其地方在住ノ補助警官
(必要ニ際シ監視廳或ハ州警察部長名集ニ應ジテ臨時ニ
警察勤務ノ補助ヲナスモノニシテ其全部ハ義勇奉公心ニ
強キ紳「キー」ヲ以テ充當シセ等ハ無報酬ヲ働クデアリマス
即チ以上ヲ約言シマスレバ國內一地方ノ防空ニ成レハク其地方、
人ヲ當テ又經費ノ幾分モ其地方ノ人ニ負擔セシメテ愛郷土ハ利
用シテ其地方防空ノ完全ヲ期スルト共ニ關係ナキ地方ノ住民ニ他地
方ノ防空費ノ負擔ヲ輕減セントスル精神ニ外ナラヌデアリマス

入空軍ト陸海軍作戰用航空部隊ト關係

英國、航空部隊ハ大戦中、途迄ハ夫々陸海軍ニ分屬シ倫敦
防空ノ責任ハ最初海軍、後ニ陸軍ニ負擔セシメタルモ充分ニ
其責ヲ果ス能ハズ爲ニ國論沸騰シ大戦中遂ニ航空部隊
ヲ陸海軍ヨリ切り離シテ独立ノ空軍ヲ建設シテテ所要ノ兵
カヲ以テ陸海軍作戰ニ協同セシムルト共ニ國土防空ノ全責
任ヲ空軍ニ負擔セシムルト、デアリマス今日英國空軍ハ
其部隊ヲ本國防禦用、陸軍作戰用、海軍作戰用ノ三判
然區分シテアリマスケレトモ何分陸海ニ比スレバ人員少キ人
事、都合上右ニ區分ヲ通ジテ人ノ遺練ヲ行ヒマスカラ折角部隊
ハ三區分ニナツテ居リマシテモ之ニ屬スル幹部ハ各區分ニ固定
スルヲ得ス從テ陸軍若クハ海軍ノ作戰ニ協同スル部隊ノ動
作甚ダ不満足ナリト、誹難カ多イデアリマス此結果先年海

軍當局ヨリ海軍協同、航空勤務ハ全ク特殊ノモノデ海軍生活ヲ經タルモノデナケル真ノ協同ハ爲シ得ストノ強硬ナル主張出テ海軍作戰用、航空部隊ノ幹部ニ海軍々々今ヲ入レ今マ海軍作戰用、航空部隊ハ名稱ハ依然空軍部隊ニシテ又表面空軍省ニ屬スルモ實質ハ殆ド海軍部隊ト選フ處ナキニ至ツタデアリマス

陸軍作戰協同用、航空部隊ニ對スル詭難ノ聲モ可ナリ高クセニ關聯シテ一昨年空軍擴張計畫繰リ延ベ案議會ニ提出セラレタル際一部ニ於テハ空軍廢止論モ相當ニ高調セラレマシタカ政府ハ断呼タル決ヘテ示シテ現状維持ヲ主張シ漸ク事ナキヲ得マシタ然レ陸軍ノ人々云フ處ニ依リマスレ現況ニテハ陸軍協同、飛行隊ハ到底陸軍指揮官ノ欲スル時機ニ希望スルカ如キ情報ヲ擧グルヲ得ス殊ニ砲

兵射撃ニ對スル協力甚タ不満足ナリ又地上戰闘參加モ地上軍ノ希望ニ合スルカ如キ動作甚ダ稀ナリト云フテ居リマス兎ニ用海軍ニテモ陸軍ニテモ其作戰ニ協同從事スル飛行隊ノ幹部ハ其配屬軍ノ行動實情ニ精通スルニアラザルハ効果アル真ノ協同ハ不可能ナルヲ以テ之等、航空部隊ハ平戰兩時ヲ通シ其軍ノ所屬トスルヲ可トスト云フテ居リマス本問題ニ關シ私ハ英人ノミナラズ在倫敦米國大使館附武官航空補佐官ト研究目的ニ話シ合ツタコトガアリマス結局米國ノ航空補佐官ト私ト一致シタ意見ハ次ノ様デアリマシタ人理想ヨリ云ハ陸海軍ニ夫々其企圖スル作戰遂行ニ必要ナル航空部隊ヲ平戰兩時ヲ通シテ其軍ノ一部トシテ屬セン別ニ國土防空ノ爲ニ獨立ノ空軍ヲ置クヲ可トス

然レドモ右ノ如クスルトキハ空軍ノ兵力ハ甚タ少ナリ獨立

セシムルノ價值モナク又其維持上各種ノ困難アルベシ
故ニ國土防空用ノ航空兵力ヲ陸軍若シクハ海軍ノ
航空兵力ニ加ヘ其軍ヲシテ國土防空ノ責任ヲモ負担
セシムルヲ尤モ適當トセン勿シテ之ヲ海軍ニ負担セシムキ
ヤ或ハ陸軍ニ負担セシムキヤニ関シテハ其國ノ地理的關係
ニ依リ夫々議論アルベキモ國土防空ハ土地ノ防空ニシテ即モ
既述ノ如ク地上ノ防空部隊ト緊密ノ關係アルヲ次ニ
陸軍ニ負担セシムルヲ妥當トセン
3 特ニ國土地方的ニ區別シ其防空ヲ陸海兩軍ヲシテ分
擔セシムル如キハ尤モ不可ナリ

九 將校ニ住宅、日用品ノ供給及子弟教育ノ便宜

(1) 住宅ノ提供

英軍ニテハ規則トシテ將校ニ住宅ヲ提供スルコトト
ナリ居リ隊附ノ独身者ハ階級ノ如何ヲ問ハス凡テ營内
居住ヲナサンメ家族アル者ニハ隊附ナルト官衙學校附
ナトヲ問ハス凡テ官舎ヲ無料貸與スルヲ立前トシ若シ官
舎ノ不足スル場合ニハ相當ノ宅料ヲ給スルコトニナシテ居リマス
右規定中隊附ノ独身者ノ營外居住ハ大戰前ヨリノ規定
デ官舎供給ハ大戰前ハ高級者ノ一部ニシテ限ラレテ居リ
マシタカ大戰後ハ之ヲ全部ニ及ホスコトシ現在デハ官舎ハ
田舎ノ軍隊學校等ニハ行キ渡リ住宅ノ豊富ナ都會
地デハ宅料ヲ給セラル、モノ尚相當田多數ニ在ル様デアリマ
スガ併シ何レノ地ニ轉任シテモ將校ガ住宅ニ困ル様ナコトハ皆

無デアリマス

(2) 家庭用生活日需品ノ供給

之レハ陸海空軍ノ共同ノ酒保ノ事業デアリマス。大戦前ニモ酒保ハアリマシタカ各軍各隊個々テ需用者ニ下士以下ニ限ラレ恰モ今日ノ我軍ノ酒保ニ似タモデアリマシタ。大戦後陸海空ノ三軍ニテ共同ノ酒保ヲ設クルコト於下士以下ノ需要ヲ充スミナラス將校等營外居住者家庭ノ日需品一切ノ供給ニ任シ而カモ本國內ニミナラス殆ド世界ノ全土ニ跨ル各地ニ分屯スル駐劄部隊根據地等ノ全部ニ對シ同様ノ供給ヲシテ居ルデアリマシタ。將校家庭ノ要求ニ應ジ日々品物ヲ其住宅ニ届ケテ居ルマス。此施設ハ軍部直接ノ施設テハナク形式ヨリ云ハハ軍部ノ監督下ニ在ル民營ヲ先ツ半官半民ノ經營ト云フヲ

當ルト思ヒマス。又經營者又使用人ハ凡テ在郷軍人デアリマス。

右様ノ次第デアリマスカラ物品ノ價格ハ一般市價ヨリ安ク又物品ノ品質ナリ其供給ナリモ極メテ確實デ如何ニ邊限ノ衛戍地ニ居住スル者モ何ソ不自由ナク只夫人等ノ為ニ之派テ禮服ヲ作ルトキ又ガ酒保ヲ利用シ得ナイダト云フテ居リマシタ。

本經營ハ陸海空ノ三軍ノ全部ニ對スルモノデアリマシタ。非常ニ大規模ノモノデ其使用人モ多数ニ上リマス。故ニ本事業ハ又他面カラ見テ在郷軍人ノ為ニ適好ニ救濟事業トナツテ居ルデアリマス。

(3) 子弟教育ノ便宜

將校ノ子弟教育ニ全ク軍部ノ關係ヲ居リマセヌカ英

國一般ノ教育制度及諸學校ニ於テ教育實施ノ實情
カ誠ニ都合ヨクナツテ居ルノデアリマス
即チ苟シクモ紳士階級ノ家庭ノ子弟ノ入校スルガ如キ
學校ハ凡テ寄宿舎ヲ有シ又學校教育ト云ハ下ノ
小學校ヨリ上ハ大學校ニ至ル迄悉ク智徳體ノ三教育
ヲ行ヒ就中德育換言スルハ男兒ナレハ立派ナル英國
紳士ヲ作ルト云フ點ニ尤モ重點ヲ置イテ居ルノデアリマシテ
學校ニ於ケル關係當事者ノ生徒ニ對スル訓育指導
及其身上ニ對スル世話懇切綿密ヲ極ムト共ニ其
起居動作ニ對スル躰亦甚ク酷シイノデアリマス即チ
學校ハ父兄ヨリ其子弟ノ身一切ヲ責任ヲ次テ預リテ居
ルノデアリマス從テ學校ノ休暇期間ニ於テモ親許カ國
内ニ在ルハ其家庭ニ生徒ヲ歸ラシメ又父兄カ海外等ニ

勤務中デアモ父兄ノ通知ニテ生徒ノ休暇中世話ヲスル家庭
アレハ之ニ行カシムルモ然ラサルモノハ凡テ學校ニテ纏メテ之ニ
相當ノ監督者指導者ヲ附シテ或ハ海岸ナリ或ハ山ナリ
ハ休暇中連レテ行クト云フ風ニマツテ居ルノデアリマス故ニ
父兄ハ何處ニ勤務スルモ又何時何處ニ轉任スルモ固
ヨリ子弟ヲ轉校セシムル等ノ必要モナク在来ノ學校ニ預
ケンマ、何等ノ懸念ナク安ヤク赴任シ勤務スルコトカ出
來ルノデアリマス
右ノ如キ違リ方ハ古來英國民ノ多数カ海外ニ於テ活動
スル必要上必然的ニ起ツタモデアリマシテ昔カラ遣ツテ居
リマスガ之ニ依ル子弟教育ノ結果ハ大体ニ於テ良好デ
アリマシテ殊ニ既往英國民ノ偉大ニ海外發展ハ斯ノ如キ
子弟教育等ノ爲父兄ニ後顧ノ憂ナカリシコトカ有カナ

ル一因カト思フデアリマス
之ヲ要スルニ我國ニ於テハ地方ニ依リ住宅ノ選定、家庭用品、需品ノ購入及子身ノ教育ハ中々ノ難問デアリマシテ殊ニ轉任等ノ際多クノ將校ハ相當之ニ苦入スル様デアリマスカ英軍ノ將校ハ右申述ヘミタ様ノ次第デ殆ト此等ニ顧慮ヲ要セナイデアリマス我軍ノ將校ヲシテ或ルヘク此等ノ家庭ニコトニ入テ勞セシメスレテ專念本務ニ服シ得ル様ニ何等カノ改善ノ途ハナイモノカト思ヒマシテ此等ノ事ナガラ本件ニ就テ茲ニ申上ゲタ次第デアリマス

第二 國內事情ノ若干

一 産業及財政ノ現況

英本國內ノ目下、尤モ重要ニ問題ハ産業ノ不振、國家ノ財政難及勞動問題デアリマス
産業ノ不振ハ生産費ノ廉、為世界ノ市場ニ於テ英國品カ他國品ニ依リ漸次ニ壓倒セラレ、カ為テアリマシテ目下其最モ強敵ハ米國デ之ニ次クハ、獨逸デアリマス米國ノ勞銀、不廉デアリマシケレドモ企業家カ各事業毎ニ巨大ノ資本ヲ纏メ且最新式大仕懸ノ設備ニ依リテ所謂多量生産ヲヤリマシテ品物ノ單價カ安クナリ又獨逸ノ其進歩セシ施設ト賃銀低ク勞動時間長ク且勤勉ナル勞動者トニ依リ優良安價ノ品物ニ中々競争ニ得ナイデアリマス
即チ英國ノ産業不振ノ原因ハ(1)資本家企業家ノ頭カ舊

式テ各小資本ヲ以テ國內テ個々ニ相對立シテ而カモ其設備甚
 ダ舊式テ所謂多量生産ニ適セナイトシテ労働者カ多
 クノ賃銀ト労働時間ノ短縮トヲ要求シテ止マナイノミナラ
 ス一定時間内ニテモ甚ク勤勉ヲ缺クトシテ為必然的ニ品
 物ノ生産費ヲ不廉ナラシメ世界市場ニ於テ他國品ト
 ノ競争ニ不利ヲ招クデアリマス 加之屢々労働爭議ヲ
 惹キ起シテ事業ヲ停止シ利益ニ不利ヲ助長シテ居ルノデ
 アリマス 試ニ大戦後英本國丹ニ於テ同盟罷業ニ依リ勞
 働者カ罷業シタル年々延人負ヲ見マシト次ノ様ナ大キナ
 数字ヲ示シテ居マス

一九一九年	三五〇〇〇〇〇〇人
一九二〇年	二六五〇〇〇〇〇〇
一九二一年	八六〇〇〇〇〇〇〇

一九二四年	八五〇〇〇〇〇〇
一九二五年	八〇〇〇〇〇〇〇〇
一九二六年	一四五〇〇〇〇〇〇〇

國家財政ノ現況ヲ御話シマスニハ先ツ中央政府ノ豫算
 ノ大体ヲ申上グルヲ早途ト思ヒマス 一九二七年一度歲出
 豫算中重要ナル項目ノ金額ヲ擧ゲ六次ノ通りテアリマス
 (磅ヲ十圓トシテ圓單位テ申シマス)

總豫算 約八十億

内注目スヘキ項目

- 國債ノ利子及國債整理ノ為 約三十五億
- 陸海空軍ヲ合スル國防費 約十一億五千萬
- 貧民子弟ノ教育
- 貧民失業保險

貧民健康保險
 貧民養老金
 貧民寡婦孤兒扶助料
 其他ニ類スルモノ

約三十一億

即チ右豫算ヲ換言シマスレハ八十億ノ總豫算中其殆ド半分ニ近キモノハ借錢ノ利子及一部ノ整理ニ取ラレ残り半分強ノ内更ニ其約半分ハ各種貧民救助事業等云ハズ慈善的社會政策ト云フ性質ノ方面ニ支出シテ居ルデ總豫算僅々約四分ノ一カ國家ノ眞ノ施設ニ使ハレ界三カ借錢拂々下層民ノ御機嫌取リニ使ハレテ居ルト云フ有様デアリマス從テ税モ非常ニ高ク其一ニ例ヲ云ヒマスレバ

相續税(之レハ死税ト稱シテ居リマス即チ死者ハ遺產ヲ

關係者ニ分配シマスノデ其全遺產ニ對シテ加税スルカラデアリマス)ハ今日最高四〇%ニ上ツテ居リマス即チ全財産ノ始ト半分ニ近キモノヲ取ラレルノデアリマス

所得税 標準率ハ大戰前約 $\frac{50}{1000}$ デアリマシタノヲ今日テハ約 $\frac{200}{1000}$ 即チ四倍ニ増加シ最高ハ $\frac{30}{100}$ 迄取ルコトニシテ居リマス

酒税 大戰前ハ税カカリマシタノヲ今日テハ課税スルコトニシテ居リマス國產ノウキスキリニ一例ヲ取リマスレハ大戰前一壘ノ賣價四志六片デアリマシタノヲ一壘ニ付キ八志ノ税ヲ課シマスノデ一壘十二志六片トナツテ居ルノデアリマス

右ノ如キデアリマスカラ官民共ニ經費節減ヲ高調シ現政府モ年々之ニ努メテ居リマスガ節減ノ手ハ只少シ計リ軍部ノ豫算ニ入ル位ニ過キマセン昨年大藏大臣ノ云フ處ニ

依リマスレハ陸海空三軍ノ兵カハ今日必要ノ最少限度ヲ
殊ニ空軍ノ兵カハ不足ナルカラ國防費ヨリノ捻出ハ行政
整理的ニ真ニ小額ヲ得ルニ過ギナイ故ニ國際的ニ軍縮ヲ
協定スルニアラサレバ將來此方面ヨリ多大ノ節約ヲ豫期
スルコトハ出來ナイ之ニ及シ慈善事業的社會政策ニ支出
スル經費ハ甚ダ多額ナル多數ノ慈善家カ個人的ニ幾
多ノ慈善事業ニ投スル莫大ノ金額ヲ別トシテ中央
政府及地方行政機關ニテ國稅及地方稅トシテ
國民カラ取り立テ税金ノ内カラ此方面ニ支出スル金額ノミニ
テモ合計年々三十五億圓ニ達スル故將來國費節減
為ニ此方面ニ研究スルノ要アリト述ヘテ居リマス
又一九二六年ノ總同盟罷業及之ニ引續キ七月ニ亘リ
タル抗夫同盟罷業ニ依リ蒙リタル英國全體ノ直接間

接ノ損害ハ殆ト百億圓ニ達スト云フテ居リマス其上ニ同年
度ハ同盟罷業ノ影響ニテ各種産業一層不振トナリ
一時ノ坑夫約百千人ノ罷業者ノ外ニ百五十千人ノ失業者
ヲ出シ其後モ今日迄失業者ノ數ハ常ニ百千内外ヲ算
シテ居リマシテ政府ハ失業保險ニ依リテ此多數ノ労働者
ヲ徒食セシメテ居ルニデアリマス
又統計ニ依リマスレハ一昨年度ハ海外貿易甚ク不振
テ入超甲餘億圓ニ達シテ居リマス併シ之レハ海外投資
ノ利子船賃銀行會社ノ手数料等海外ヨリ入リシ金
デマツト清算ニ得テ勘定トナツト云フテ居リマス
要スルニ英國ノ財政經濟ハ未ダ危險ト迄ハ行カサルモ現
況ハ甚ク重大ナリト一般ニ論セシテ居リマス併シ元來カ金持
ノ國デアリマスカラ財政難ト云フテモ負任國ノ財政難トハ餘

程趣キカ違フ様アリマス 各都市ヤ住居地ニ家屋ノ
改築中ヤ新築中ノモノモ中々多ク片田舎ニ至ル迄自動
車道路ハ立派ニ維持セラレ依然富豪ハ全國到ル處ニ
豪壯ナル邸宅華麗ナル庭園ヲ構ヘ廣大ナル狩場ヲ維持
シテ居リマス又彼我富力ノ比較ハ一番早分リニシマス
ハ貧民ノ程度ノ比較アリマス例ヘハ前述ノ慈善的社會
政策ニ關スル規則ニ於テ失業保險トカ健康保險トカ或
ハ養老金ナドノ恩惠ニ浴ニマス貧民ハ年收二千五百圓
以下ト明記シテアリマス之ヲ我陸軍少佐ノ年俸二千六百
圓ナルニ比較ニマスレハ彼等ノ所謂貧民ハ吾等トハ大分程度
ニ差カアリマス 彼等ノ所謂財政難モ之レト同様ノ關係ト
見テ宜シカコウト思ヒマス
彼我富力ノ上カラ見タ比較ハ別トシテ英國自身カラ云ヒマスレ

ハ現状ハ財政・經濟上近代ニナキ一大難局デアリマス此難
局ニ導キマシタノハ大戰ノ影響有力ナル一因デアリマス
之ヲ別トシマスレハ政府及資本家ノ責モ免ルヘカラサルモノカ
アリマスケレトモ根本ノ病源ハ勞働問題ニ在リト思フノテ
アリマス

二、労働問題

英國ハ労働争議ニ於テハ世界ノ元祖デアリマシテ今日デハ單
ナル傭主被傭者間ノ經濟上ノ争テナク政治問題トナリ
延ヒテハ動モスレハ一般經濟組織、社會組織ニモ影響及
ントスル重大ナル問題トシテ居ルデアリマス最近ニ於ケル
其最高潮ハ一九二六年ノ労働組合全國總同盟ノ政府
ニ對スル總同盟罷業ニ現ハレシカテ遂ニ労働者側ノ敗ニ
歸シマシテ爾來狀況大ニ緩和ヲ見小廉ヲ得テ目下盛ニ勞
資、協調ヲ唱ヘラレ此機運ヲ促進セントシテ各種ノ運動ガ
アル様デアリマス 順序トシマシテ先ツ各種労働團體ニ就
テ大要ヲ申述ヘマス

(一) 労働組合 (職業組合ト云フヲ正當トセン)

之カ英國労働團體ノ元祖デアリマス其由來ヲ尋ネマスルニ

往時、英國ニ於テモ被傭者ハ傭主ノ眞ノ奴僕ニシテ傭
主ハ之ヲ酷使シテ只自己ノ懐ノミテ脹ラマシテ居タリテアリ
マシタカ今ヨリ約百年前各職業毎ニ各地方最寄リ最
寄ニ同一職業者集リテ組合ヲ作り以テ共同ニシテ其傭
主ニ對抗シテ自己ノ労働條件ノ改善及生活状態ノ
向上ヲ企テ官憲ノ壓迫ヲ受ケ血ヲ流シテ漸ク今ヨリ七十
年前法律上組合ナルモノヲ認めラレ其後又同盟罷業
ナル行為ヲモ認めラル、ニ至ツタリテアリマス斯クテ各種職
業組合ハ更ニ努カクテ續ケテ遂ニ各種職業毎ニ全國聯
合組合ヲ作り益々團結ヲ鞏固ニシテ勢力ヲ大ニシマシタガ
近年ニ至リ一部ノ指導者ハ進ニテ各種職業ノ全國聯
合組合ヲ更ニ合同ニシテ全國諸労働組合ノ總同盟ヲ
作ラントシテ居リマスカ一九二六年三月總同盟罷業ノ際

一時的ニ此總同盟ノ團結ヲ見マシタリシテ各組合ハ其有
ル資金ニ大ナル差アルミナラズ其他容易ニ利害ノ一致ヲ見
又点モアリマスシテ未ダ常時的ニ此ノ如キ一大團結ハ成立
シマセヌ只毎年一回全國各組合ノ代表者集リ總會ヲ
開キテ共通ノ問題ヲ議定シ又臨時共通ノ重大問題發生
ニ際シ連絡ヲ取ルト云フ程度ニ過キマセヌ
以上ノ如ク組合ノ組織鞏固トナリ其規模モ大トナリ勢力
モ増大シマシタカ今日ニ於テモ組合ノ目的及組合トシテノ行為
ノ範圍ハ依然トシテ資本家ニ對シ自己ノ労働條件、生活
状態ノ改善向上ヲ圖ルニテアリマシテ即チ純然タル労働
資材、經濟上ノ事ニ外ナラヌデアリマス
組合ノ種類ハ専門的職業ニ應ジ多種多様ニ分レテ居
リマシテ所謂筋肉労働者ノ組合ハ勿論頭腦労働者

ノ組合モアリマス例ハ小學校教員組合(官立ノ貧民小學校ノ教員ニテアリマス)下級文官雇員組合下級會社員店員組合ト云フ様ナモノモアリマス

各種労働組合ニ加入シタル人其ハ全國總計約四百万人デアリマス労働者ノ調査ニ依リハ全國労働者(筋肉頭腦共)ノ總數ハ約一千三百万人ト云フ事デアリマスカラ組合員ハ全労働者ノ三分一弱デアリマス併シ他ノ三分ニハ多ク個人ノ使用人デアリマシテ又今日何等團結共同ノ組織カアリマセヌカラ勿論勢力ハアリマセヌ

(2) 労働黨

之レハ純然タル政治團體デアリマス前述ノ如ク労働者ハ自ラ組合ヲ作り直接資本家ニ對シテ自己ノ労働條件及生活状態ノ改善向上ヲ圖リツ、アリマシタカ其後政治

的運動ニ依リテ労働者ノ福利増進ヲ圖ラントス政治

家出テ労働者ノ支援ニ依リテ下院ニ議席ヲ有スコトナ

リマシタ今世紀ニ入ルマ此等ノ人々相合シテ政黨ヲ組織

シマシタ今日ノ労働黨カ即チ之デアリマス

大戰前迄ハ議會ニ於ケル勢力甚ク微タラシモテアリマシタカ

大戰後頃ニ勢力ヲ張リマシテ一九二四年ニ自由黨ト

結ビテ一時政權ヲ得間モテク失脚シマシタカ今日尚下院ニ

於ケル第一黨デアリ現政府ノ為ニ最大最強ノ反對黨デア

リマス

労働黨々員ハ少数ノ貴族富豪モ居リマス其主力

ハ労働組合員デアリマス又其資金ノ一部ハ貴族富田

豪ノ寄附金ヨリ成リマスカ資金ノ主力亦其黨員タル

労働組合員ノ零細ナル資金ニ依ルデアリマス

黨員ノ總數ハ三百萬餘アリマス此等黨員中ニ後述スル如キ共產黨員ノ少數派運動員等ヲ混スルモ黨員ノ大多數ハ穩健社會主義者テアリマシテ即チ立憲的ニ自黨ノ勢力ヲ擴張シテ下院ニ多數ヲ制シテ改權ヲ握リ所要ノ法案ヲ議會ニ提出シ適法ノ行為ニ依リテ其抱懷スル社會政策ヲ實施シテ下層民ノ福利ヲ増進セシコトヲ企圖シテ居ルデアリマス

(3) 共產黨

一九二一年創立ノ政治團體デアリマス赤露ノ第三「インターナショナル」英國支部ト見ルヘキモノデアリマシテ絶エス露國本部ノ指令ヲ受ケ又資金ノ若干モ補助ヲ受ケテ居リマス

黨員中ニ他ニ職業ヲキ赤化運動専門ノモノモ居リマ

スカ黨員ノ主力ハ矢張労働組合員デアリマシテ資金ノ大部モ黨員名組合員ノ募金ニ依ルデアリマス此黨ノ勢力ハ甚ク微々タルモノデ全國デ正黨員約四千人、准黨員ト認ムヘキ者約四千人ト云フテ居リマス目下下院ニ一名議席ヲ有シ居リマス

(4) 少數派運動

一九二五年創立ノ政治團體デアリマス名稱カラ變テモノデアリマスカ元來英國人ハ社會主義ト云フ名稱モ好ミマセ又從テ労働黨ト稱シテ社會黨ト云ハヌデアリマス況ニマ共產主義ニ於テオヤデアリマス之レ即チ共產黨員ノ少キ所デアリマシテ本黨ニ少數派運動ト云フ變テ何ノ事ヤラ分ラ又名稱ヲ附ケタ所デアリマス本黨ノ實質ハ共產黨ト殆ト選フ處ナク否

寧ろ明カニ共產黨ト銘ヲ打タスニ曖昧ナ名稱ヲ付
シテ居ル丈ケ却テ危險ガト云フテヨイ、デアリマス黨員
ノ主力ハ労働組合員デアリマシテ又資金ノ大部モ黨
員タル組合員ノ醵金ニ依ルデアリマスカ露國ヨリ指
ト資金ノ一部ヲ受クルコト共產黨ト同様デアリマス
一九二六年始メニハ黨員約二十カト云フテ居リマシタガ
昨年ハ約九十餘カト號シテ居リマス

即チ英國労働團體中ノ政治團體ハ三個共其黨員
及資金ノ點ニ於テ悉ク労働組合ヲ踏臺トシテ居ル、ガ
リマスカラ労働間ノ爭議カ直ニ政治化スルハ自然デアリ
マシテ又此ニ政治團體中ニ個ハ現在ノ經濟組織、社會
組織ヲ變革センコトヲ企圖シテ居リマスカラ問題カ動モ
スレハ此等ニ影響ヲ及ボサルヤト懸念セシムルカ如キ傾

向ヲ示スデアリマス

露國ノ英國ニ對スル赤化運動ハ最初專ラ知識階級
ニ對シテ行ヒマシタカ其効果思ハシカラザルニ鑑ミ其後方針
ヲ變ヘテ其魔手ヲ主トシテ労働者ニ加ヘ殊ニ労働爭議
ノ發生スル毎ニカヲ入シテ運動ニ努メテ居ルデアリマシテ
一九二六年ノ全國坑夫同盟罷業ニ際シテハ罷業團體鼓
舞激勵ニ努ムルト共ニ此罷業間合計約一千万圓
ヲ罷業繼續ノ軍資金トシテ罷業團體ニ贈ツタト云フコト
デアリマス此結果坑夫ノ間ニハ可ナリ赤化ノ勢カ同年中ニ
ノ様デアリマシテ彼ノ少數派運動ノ黨員カ同年中ニ
激增シマシタノモシカ為ト思ハレマス併シ他ノ一面ニ於テハ一般
國民ハ勿論労働者中ニモ此露國ノ露骨無遠慮ナル
行為ニ對シ及感ヲ懷ク者相當ニ増加シタ様デアリマス

共產黨又少數運動、西黨、露國式革命ヲ最後
ノ目的トスル同一主義者、集マルル比較的鞏固ナル團體テ
アリマスカ之ニ及シ労働黨内ニ共產黨負モ少數運動
負モ入り込メル各種ノ思想ト政策トヲ有スモノ、混淆
團體デアリマス、過去數年來毎年ノ労働黨總會ニ
於テ黨内ヨリ共產黨負ヲ驅逐スルノ決議常ニ多數ニテ
通過シマスカ一向ニ效果カ現ハレマセヌ又昨年ノ總會テハ少
數派運動負ヲモ驅逐スルノ決議通過シ然ガ恐ラク大ナル
實果ハ擧ガルマイト思ヒマス

労働黨ノ實體ハ右様ノ様式デアリマスカ同黨ハ前述
如ク政治的労働團體中他ニ比シ著ク勢力ノ優勢ナル
團體デアリマシテ又同黨内ニ於テモ黨負ノ大多數ハ所謂
穩健社會主義デ即チ革命ヲ否定シ皇室ヲ尊重シ立

憲的ニ漸クテ國家的社會政策ヲ行ハントスルモデアリ
マス之レ英國ノ労働爭議ク一大事アラントシテ一大事ニ到
ラズシテ止ミ之ニ對シ露國ノ常ニ憤懣スル所デアリマス
一般ニ英國人ハ其國民性トシテ急激ナル變化ヲ嫌ヒマス
從テ一般國民ハ勿論労働者ノ多クモ「ムツリニ」式ノ急激
ナル及動政治ト共ニ革命ヲモ嫌フ様デアリマス資本家ニ
對シ大ナル惡感ヲ有スル労働者カ何故ニ革命ヲ嫌フカ
ト云フコトニ就テ色々ノ方面ノ人ト話シ合テ見マシタカ其云
フ處ハ大抵同シデアリマシタ 即チ彼等ハ何モ各種思想
ニ關シ自由ニ研究シ得ルカ故ニ學理上理論上其利益得失
ヲ正當ニ判別シ得ルト云フ様アコトカラ革命嫌惡ノ念
カ出タノテハ決シテナイ、古今ニ亘リ英國民ハ目ノ當リ度々
歐洲諸國ニ於ケル革命ノ實際ヲ目撃シテ居ル佛蘭

西^革政命、目的及其結果ニ對スル豫想カ當時革命指
導者、述ヘテ通リテアリトスルハ革命後、佛蘭西ハ凡テ
自由、平等デ貧困民ハナイ筈デアル又最近、露國革
命モ同様ヲナケレハアラヌ然ルニ今日露國ニ行テ見ル貧
困民ハ矢張貧困民デ殊ニ各停車場ニ無数ノ不快ナル氣
食カウデシクスル程居ルニ又其政治ハ少數者ニ依ル純然タ
ル独裁政治デ何等ノ自由、平等モナイ要スルニ英國民ノ實
見タル諸國ノ革命ノ結果ハ只少數ノ革命指導者カ何
等カノ權能カ利得ヲ獲得スルニシテ一般ノ貧民一般ノ勞
働者ニ何等ノ恩惠モク多ク、貧困民ハ依然トシテ貧
困民デアル一般ノ貧困民ハ只革命ノ駒ニ使ハレテ血ヲ流シ或
ハ生命ヲ失フガ落テアルト云フ事實ヲ吾々常ニ同ニ様ニ
見タテアル。コナト馬鹿馬鹿シイコトハナイコレヨリモ現在

政治組織制度テ普偏的ニ貧困民ノ生活向上ヲ逐次ニマ
テ直フカ一番ヨイト云フ様ナ意味合デアリマシタ
右様ノ次第デアリマスカラ英國ノ労働團體ハ遠キ將來ハイデ
知ラズ當分ハ矢張リ穩健社會主義カ勢力ヲ占メ革命
等ノ急變ハ先ツナイモト思ハレマス
係ニ勞資間ノ及感ハ中々根強ク度々同盟罷業殊ニ
昨年ノ大同盟罷業テ一層兩者間ノ及感ヲ増大シ一時ハ
仇敵ノ觀カアリマシタ從テ前述ノ如ク労働爭議カ直ニ
政治組織乃至社會組織ニ急激ナル變革ヲ來スカ如キコ
トハ當分無イトニマシテモ此勞資間ノ及感及爭鬪ハ英
國産業及經濟界ノ現難局ノ病源デアリマシタ此儘ニ放
擲スレハ幾年カ後ニ結局ハ産業ノ自滅トナリ甚イテハ
如何ナル變革ヲ伴フニ至ルヤモ知レナイト思ハヒマス

茲ニ於テ國內、有識者ハ大ニ將來ヲ憂ヒ勞資間ノ關係
改善ノ急務ヲ叫ブ聲高マリマシテ昨年度政府ハ一方ニ
於テ直接勞働爭議ノ影響ヲ範圍ヲ局限セントシテ
勞働爭議法ノ改正ヲ行フト共ニ他方ニ於テハ勞資ノ協調
盡カスル處アリ此結果遂ニ勞資兩側ノ穩健ナル指導者
者相會ニテ勞資協調問題ヲ研究スルコトニシテ
デアリマス此結果如何ナル結果ヲ得ヌカハ見物ト思ヒマス
又一昨年ノ大同盟罷業終止以後ハ同盟罷業ヲシ
モハ未タ起リマセ又併シテ直ニ勞資間ノ感情融
和ヲ見タモト思フハ早計デアリマス各勞働組合ハ昨
年ノ大同盟罷業ニテ其平素蓄積ニテ居リマシテ資
金石ト全部ヲ費消シ盡シマシタノデ目下ハ隱忍ノ折角
資金ノ蓄積中デアリマス 相當資金ヲ纏ラネハ活動

ハ出來ナイノデアリマスカラ現時勞働爭議ノ沈靜狀態
ハ勞働組合カ其將來ノ捲土重來ノ為ニ準備時期トモ
見ラレルデアリマス

要スルニ勞働問題ハ由來英國産業界ノ癌デアリマシテ
近時病勢カ大分増進シ目下頻ニ其療法ノ調査研究
中ノ様ニ思ハレマス果シテ如何ナル療法ヲヤリマスカ又其療
法ヲ果シテ根治シマスヤ否ヤコレハ將來ヲ見ネバ分リマセヌカ
英國ノ本病ハ餘程進ニテ既ニ大分政治化シテ居ルニ係ラ
ス現時研究シテ居ル療法ハ不徹底ニ膏藥張リカ注
射位ノ處テハナイカト思ハレマス私個人ノ見ル處デハ已ニ英
國ノ程度位悪質トナリタル以上ハ大英傑カ出テカアル
政治ヲ行ヒ癌ノ思ヒ切ツテ大手術ヲ病根ヲ根治シテ後立
テ直スノデナケレバ眞ノ安固ハ期シ得ラレナイデハナイカト思

フデアリマス

序ニ申上ゲマスハ米國ノ労働問題デアリマス

米國ノ労働爭議ハ勿論英國ノ様ニ頻繁テモナク大規模デモナク又其労働運動ハ今日迄毫モ政治的意味ヲ持ツズ單純ナル勞資間ノ經濟上ノ爭ニ過ギナク云ハッ病氣ノ眞ノ初步デアッタデアリマス之ニ對スル米國療法ハ大体成功ノ様デアリマシテ近來米國ノ勞資間ノ協調ハ餘程旨ク参リ最早所謂勞資協調ノ域ヨリ進テ已ニ勞資合同ト云フ處迄行ツテ居ル處ク多クイト云フコトデアリマス即チ製造會社ニ就テ云ヒマスレハ職工ニ其會社ノ株ヲ持ツス様ニテ居リマスカラ職工ハ能ク働ケハ職工トシテ賃銀ヲ多ク貰ヘルノミナラス能ク働イタ結果會社ノ經營ノ良クナリ從テ職工ハ株主トシテノ配當ヲモ多ク受クル

ト云フコトニナルデアリマス コー云フ譯デ或工場テハ職工ノ多數非カ今日自家用自動車デ通テ居ルト云フコトデアリマス私ハ今日我國ハ米國カラ色々ノ良クナイコトカ澤山入リ込ミンナル様ニ思フテ居ルデアリマスガ米國ノ勞資ノ關係又ケハ是非共我カ國ニ入レ度イト思フデアリマス然ルニ我國ノ労働界就中労働指導者ハ其御手本ヲ英國カラ取り其上ニ露國流ノ模様ヲ加ヘッナル様デ云ハッ世界デ一番悪イ處又ケテ來テ居ル様ニ感セラルノデアリマス今回普選デ労働運動カ政治化スルノ端緒ヲ作ツタ様デアリマスカ未タ病ハ初步デアリマスカラ多少ノ手術ノ後米國式療法ヲ行ケハ良クナイカト思フデアリマス

三、紳士階級、堅實ト其子弟、教育

大戦間英國、紳士階級カ國難ニ處シ眞獻身的各方面ニ活動シテ實例ハ皆様御存シノ通りデアリマシテ私闘戰、當初一年半英國ニ居リマシテ具クニ此實情ヲ見シ聞シマシテ感動シタデアリマス

一昨年、總同盟罷業ニ於テモ再ビ同様ノコトヲ實見致シマシタ其詳細、當時報告ヲ置キマシタガ要スルニ總同盟罷業ノ短時日ニ鎮靜シマシタノハ主トシテ紳士階級ノ老若男女ノ奉公的精神、賜物デアルト認メマシタ各種自動車、運轉、汽車、電車、運轉、警官、補助勤務瓦斯、電燈、水道等、工場作業場内、勤務等皆此ノ階級ノ人々ノ手デアリマス中ニモ妙齡ナ伯爵令嬢ガ貨物自動車ヲ運轉シテ食糧品、運搬ヲヤリ中

年ノ子爵ガ汽車ノ機関ヲ勤メ老年ノ伯爵ガ補助
巡査トナリテ本職巡査ノ指導ノ下ニ夜警ニ服務シ上下
西院議員ガ協力シテ驛長以下切符切リマデノ停車
場勤務ニ服シ大學生ガ倫敦船渠ヲ荷揚人夫ノ仕事
ヲ為シ又「ハイドパーク」ニ於ケル自動車マ廠デノ夜食準備
備ノ分配ニ勤メタル貴婦人中ニ三名ノ公爵夫人モ混テ居
タト云ノ様ナ實例ハ澤山アリマシテ平素晝ハ「スポーツ」マ
狩獵ニ夜ハ芝居見物マ「ダンス」マ「トランプ」ニ浮身ヲマ
ツス貴族富豪ノ家庭ノ人達デモイザトナレバ身ヲ挺シ
テ率先國難ニ趣キ範ヲ一般國民ニ垂ル、覺悟ヲ有シ
其愛國心ト義務奉公ノ熱度ハ見上ゲタモノト感シマシク
其他ノ一般紳士階級ノ人達ノ國家觀念極メテ強烈デ
アリマシテ殊ニ彼等國家的自負心ノ強烈サト其現レノ露

露トハ私共ノ相當懇意ニ交際シテ居ル間極ノ平素
極ノ謙和ナ男ヲモ時々面憎ク、感スル程熾烈テアリ

斯ノ如キ紳士階級ノ堅實サハ英國ノ教育力然ラレムル
モノト思ヒマス一英國ノ教育制度ハ頗ル舊式デ且不
整頓テアリマス、官公立ノ學校ト云フハ、近來極ク少数ノ
科學方面ノ學校カ出來マシタカ其他ハ凡テ貧民學校
デアリマス而シテ所謂紳士階級ノ子弟ノ入ル學校ハ全ク之ト
別デハ學校ヨリ大學校ニ至ル迄悉ク私立ノ學校デアリマシテ
其内容ハ我國^借ノ塾ト云フ感シ、スルモノデアリマス故ニ智
育ノ點ニ至リマスレバ甚クツテ居リマス併ニ体育殊ニ德育
ニ至リマシテ此等私立ノ諸學校ハ尤モ重シテ居ル處デアリマス
德育ト云ヒマシテモ之派ナ人間ヲ作ルト云フヨリモ之派ナ英

國民即于愛國心ト義勇奉公ノ念、強烈ナ所謂英
國紳士ヲ作ルト云フ者ニ尤モ重キヲ置イテ居ルデアリマ
ス從テ學校ノ生徒ニ對スル躰ハ中々酷シイデアリマシテ
中學校程度迄ハ今日デモ學校デ鞭ニ依ル體罰ヲ用
ヒテ居リマス又スポーツハ盛ニマツテ居リマス之レハ遊戯
ハアリマセ又体育ト共ニ之ニ依テ精神鍛鍊ヲマツテ居ル
デアリマス即チ節制、團結、服從、協同、犧牲等ノ團體
的精神ヨリ進取、敢為、廉恥、忍耐等、個人的徳性、
涵養鍛鍊ハ學校ノ教育、躰ト相俟ツテ「スポーツ」ニ依
テマツテ居ルデアリマス能ク善悪等ニ現ハレマス押シテ強
イネバリ強イ、負ケ又氣ノ強イ英國人根性ハ「スポーツ」
鍊ヘカラ來テ國民性ダト思ヒマス
私ハ英國青年ノ意氣トシテ度々面白イ實例ヲ見聞

致シテ其顯著ナルニ例ヲ申上ゲマス

大戰間ノ一例

開戦ト共ニ英軍ハ陸軍ノ大擴張ヲ行フコトニ決シ新
軍編成ノ為ニ募兵ヲ致シマシタ(當時ハ未ダ徵兵令ヲ
敷イテ居リマセス)國境合戰、敗報殊ニ英軍敗退ノ報
傳ハリマスマ應募者激增シ毎日募兵事務所ニ殺
到スルノ盛況ヲ呈シマシタ此時諸大學校ノ學生亦兵
卒トシテ應募スル者多ク劍橋醫科大學生ノ如キ亦
全部志願シマシタ陸軍當局ハ兵力増加ニ伴ヒ將來
大ニ軍醫ノ必要ヲ感シテ居リマシタ(當時ノ陸軍大臣
キチナール元帥ハ直ニ劍橋醫科大學生ニ宛テ「諸
君ノ忠烈ナル愛國心ニハ感動措ク能ハザル處ナルモ英
軍ハ將來更ニ大ニ兵力増加ノ企圖アリテ軍醫ノ必要

將來益々切實ナリ故ニ諸君ハ今暫ク隱忍シテ其專攻
タル醫術ノ研鑽ヲ繼續シテ陸軍カ諸君ノ専門學
術ニ對シテ要請スル迄待タレヨト云フ意味ノ書面ヲ出
シテ觀告シマシタ然ルニ醫科大學生全員ハ之ニ對シ
「今又國家ノ危急ニ際會シ無為看過スルハ吾人英國
青年ノ本領ニ及ス將校タル兵卒タル將々軍醫
タルハ吾人ノ敢テ選フ處ニアラス吾人ハ只國難ニ際
シ速ニ一身ヲ國家ニ捧ゲ得ルハ足ルトテキチナリ陸相、
勸告ヲ付テ断平トシテ兵員トシテ應募シキチナリ元
帥亦其意氣ニ感シテ其儘トシマシタ
之レハ少々極端デ稍輕卒ノ感カアリマスカ青年ノ意
氣ト云フ點ヨリ見テ當時私ハ感動シタノデアリマス

(2) 總同盟罷業ノ際一例

總同盟罷業ニ際シ最モ重大ナリシ問題ハ食料品ノ
供給デアリマシタ御存ジ、如ク英國ノ食料品ハ全國民
需要量ノ四分ノ三ハ海外ヨリ輸入スルデアリマス當時
倫敦船渠ニハ食料品ヲ満載セル多数ノ船カ入テ居リ
マシタカ荷揚人夫カ罷業シマシタノデ如何トモスルコトカ出
來マセ又一兩日經過スル内ニ倫敦商人ノ貯藏セル食料
品モ段々減ジマスノデ當局ハ大分焦リ出シマシタ此事ヲ聞
キマシタ倫敦大學生ハ檄ヲ牛津劍橋ノ兩大學生ニ
飛ハシマシタ之ヨリ先キ各大學、専門學校等ノ學生中
電氣々各種機械等技術方面ノ專攻者及自動車運
轉ノ心得アル者等ハ夫レニ應ズル方面ニ活動シ藝ノナイ連
中ハ補助巡查ナドニ出テ居リマシタカ右ノ報ニ接シテ之
處ニ出テ來マシタノハ牛津劍橋及倫敦ノ三大學生並

倫敦醫學校、學生ヲ別ニ其時迄振フヘキ特種ノ藝
ノナイ所謂無藝大食ノ腕節ノ強イ青年デアリマシタ
當局ハ直チニ之ヲ船ニ載テ船渠ニ送り荷場ヲ始メ
シメ之ニ伴フテ倫敦カラ装甲自動車ノ護衛ヲ附セル
貨物自動車ノ大縦列ヲ船渠ニ送り難ク多量ノ食
料品ヲ「ハイドパーク」ニ輸送シタデアリマス此荷場學
生ハ尔後船渠内ニ假宿シ日々荷場勞働ニ精勵シテ
居ッタデアリマシタ斯克テ私共モ全ク平常ノ通り
食料品ノ供給ヲ受ケタデアリマシタ
私ハ本項御話ノ最後ニ只高等教育ノ諸學校テ斯ノ如
キ堅實ナル愛國奉公ノ念強キ學生ヲ養成シテ居ルハ
誠ニ羨シイト云フ一言ヲ附加スルニ止メテ置キマス

四、國民ノ軍事及軍人ニ對スル態度

(1) 一般ニ軍事智識ノ進ムルコト

英國一般ノ智識階級ノ軍事ニ関スル智識ハ餘程進ニテ
居リマス各種社交的會合ノ際ニ於ケル談話、議會ニ於テ
議員ノ質問、演說、新聞記事等ニ於テ明ニ之ヲ認め得
ルデアリマス時々婦人ヨリ可テリ専門ニ見ル事項ノ質問ヲ
受ケ或ハ之ニ関スル意見ヲ聞キテ面喰フコトモアリマシタ
右ハ一般智識階級ノ人達カ國民ハ自國ノ國防ニ關與ス
ヘキモノナリトノ考ヘカラ軍事ヲ重視シ從テ自ら自己ノ軍
事常識ノ向上ニ心懸クルト社會ノ各方面ニ於テモ國
民ノ軍事常識ノ向上ノ為ニ甲々努メテ居ルトノ結果
デアルト認めマシタ其重ナル一ニノ例ヲ申述ベマス

(A) 軍事講座

各大學校ニハ必ず軍事講座ヲ置イテ居リマス講師
ハ大戦間實戰經驗アル退職將校デ又多クハ前カラ
軍事著述家等トシテ名知シタ軍事上ノ學識モ相
當深イ人デアリマス一昨年牛津大學ノ講師ハ
「クロゼウキッチ」ノ大戦學理ヲ講義スル傍ラ奈公羽
戦史ヲマツテ居リマシタ倫敦大學デハ歐洲大戦ノ
戦史ヲ説キツ、近代戦闘方式ヲ講授シテ居マシタ
アリマシタ

(B) 軍事講演會

講演會ハ一般ニ各方面ノ諸團體ニ於テ盛デアリマシタ軍
事講演會モ中々盛デアリマス一般的ノモノモアリマシ
相當専門ニ亘ルモノモアリマス私モ度々招待ヲ受ケマシ
カ都合ガ悪クテ多クハ欠席シマシタカ四回丈ケ倫敦大

學ノ主宰スル講演會ニ行キマシタ參會者ハ學子生ヨリ
モ一般所謂紳士淑女カ多クアリマシタ第一回ハ陸軍大學
校長ノ行ヒマシタ英國陸軍、第二回ハ海軍大學校長ノ
行ヒマシタ英國海軍、第三回ハ空軍參謀次長ノ行ヒマ
シタ英國空軍、第四回ハ英帝國國防會議書記官
長ノ行ヒマシタ英帝國國防會議ト云フ演題デアリマシタ
其他私共外國人ヲ入レナイ講演會々各方面ニ屢ニアル
様デアリマス例ヘハ「倫敦防空トカ」今日ノ空中戦闘トカ
「英軍機械化トカ」將來ノ毒瓦斯對スル國民ノ用意トカ
トカ云フ様ノ演題ノ講演會カ有ツタト云フ様ナ新聞
記事ヲ後デ時々見マシタ

(c) 新聞雜誌ノ軍事ニ關スル記事

新聞雜誌ニ軍事ニ關スル記事ハ絶エ間ナク出テ居リマス

私共ノ研究調査ノ大部ハ先ツ新聞雜誌ノ記事依
リテ端緒ヲ得セテ種ニテ手續行ツテ纏ムルガ多
イノデアリマス私ハ日本ニ歸リマシテ我カ新聞雜誌ヲ見
マシテ或ル程我カ國ニ來テ居ル外國ノ大公使官附武官連
中ハ我軍軍事上ノ研究調査ノ種ヲ得ルコトニ就テ私共ヲ倫
敦ニ居リマシタヨリモ遙ニ骨ヲ折テ居ルコトデアロウト今更テ
カラツク感シタ程デアリマス

一寸名ノ賣レタ雜誌デ毎創軍事ニ関スル記事若ク論
説ノナイト云フコトハ殆ドアリマセ又又大新聞ハ皆我國ノ
所謂三面記事ニ類スルコトハ載セマセスク軍事ハ政治經
濟ト殆ド同様ニ重視シテ盛ニ載セテ居リマス殊ニ陸海空
軍ノ豫算(英國デハ習慣トシマシテ各省別々ニ豫算ヲ議
會ニ出シマス)カ出マスレハ大新聞ニ悉ク其軍事記者カ其内容

ヲ細クニ説明シ且之ニ對スル所見ヲ附シタル記事ヲ載
スル外ニ又ス社説デ之ヲ評論シマス又之ニ関スル議會ニ於
ケル大臣ノ説明演説又議員ノ質問並又對意見等
モ詳細ニ新聞デ紹介シ且更ニ之ニ對スル社説ヲ掲クル例
トシテ居リマス而シテ此等社説ハ皆相當ニ軍事上ノ智
識ヲ有セサレハ書ケヌ様々專門的、具體的ノモノデアリ
マス

又毎年ノ夏秋ノ候ニ於ケル軍隊ノ演習季節ニ各大新
聞ハ夫々其軍事記者ヲ諸方面ノ軍隊ニ派シテ日々競
フテ要圖又寫眞ト共ニ演習記事ヲ掲ゲテ居リマス
之等ノ記事ハ大抵步兵旅團内ノ練兵又其以上ノ大部隊
ニ及ヒマシテ各演習ニ於テハ想定ノ演習ノ經過統監ノ
所見又記者ノ所見ニ亘リマス又演習季末ニハ多ク大新

聞デハ軍事記者、綜合的所見ヲ載スルヲ例トシテ居
リマス此所見ハ演習成績、綜合的所見ヨリ、軍編制、
裝備訓練ニ及ヒ中ニ戰史及外國軍ノ例ヲ引用シテ
論スルモノモリマス又斯ノ如キ記事、出マシタ直後ノ社交上
ノ會合等、際食卓等テ之ヲ話題トシテ意見ヲ戰
ハス紳士淑女ヲ能ク見マシタ

右様ノ有様デアリマスカラ自然ニ智識階級ノ人達ハ軍
事上ノ常識ガ發達スルノデアリマス又ドー云フモノカ近來一般
國民カ軍事ガ好キニツク様ニ思ハレマス例ハ活動寫真
デモ愛モヨリモ戰爭ニ關スルモノ或ハ冒險モノヲ好ク様デア
リマシテ陸戰デモ海戰デモ戰爭ニ縁アル活動寫真カ出マ
スレバ何時モ大入満負デ或ハ戰爭寫真ノ如キハ同シ館
デ同ジモノヲ一年半モ毎日毎日續ケテカモ少ナクモ一週間

前位ニ申シマネハ切符ハ賣切レト云フ盛況デアリマシタ
(2) 軍旗ニ對スル麗ハキ態度

軍旗ニ對シマシテハ貴賤貧富ノ別ナク老若男女ノ差ナク
國民皆等シク誠バヲコメテ敬禮ヲ致シマス私ハ私ノ住宅
カラ事務所ニ参リマスニ「バッキンガ」宮殿ノ前ヲ通リマスニ
能ク守衛隊ノ上番或ハ下番ニ出逢ヒマシタ守衛隊ノ上下
番ハ常ニ軍旗ヲ樹テ樂隊ヲ先頭ニ立テ、宮殿ニ行キ或ハ
宮殿カラ兵營ニ歸リマスカ其際軍旗ヲ見マシタモノハ悉
ク敬禮ヲ致シマス私ハ一度五ツッ位ノ男ノ子ヲ連レタ母親ノ
態度ヲ見テ感ベシタコトカアリマシタ母親ハ軍旗ヲ見ルト
直ク敬禮シマシタ小兒ハ美シイ勇マシイ行列ヲ眺メテ居ル
丈ケテ敬禮ヲシマセシタラ母親ハ直ク「軍旗ニ敬禮ヲナシ
ト注意シマシタ」ナゼ御カーサント小兒ハ聞キ返ヘシマシタ母

親ハ親ロニ軍旗ノ由來ヲ説キ英國民ハ何人デモ自國ノ軍
隊ノ軍旗ニ何時何處デモ之ヲ見マシタラズ敬禮セネバナ
ラヌモノデアルト教ヘマシタ小兒ハ其時少シ行キ過キテ居タ軍旗
ニ對シ帽子ヲ取り最敬禮ヲシマシタ母親ハ之ヲ見テニコクシテ
ガラ「良イ子ダ何時モソウナサイ、ソレデ之派ナ英國男子ニシ
ルト云フテ居マシタ

私ハ昨年十月ニ歸朝致シマシテ間モナク

大元帥陛下ノ海軍大演習御統監ノ為ニ行幸アリセラ
ル、デ在京ノ歩兵第三聯隊共ニ堵列シマシタ丁度
其位置ハ宮城前デアリマシタ私ハ第三聯隊ノ軍旗ノ直ク
右ニ居リマシタ、デ御待テ居ル間特ニ通行人ノ軍旗ニ
對スル態度ニ注意シテ見テ居マシタ東京驛ニ先着スル多數
ノ人カ前ヲ通りマシタ大抵自動車デアリマシタ私共ノ前ヲ通シ

人テ陸軍々々人ハ悉ク軍旗ニ敬禮シマシタ又御紋章付
イタ自動車ニ石シタ貴婦人モ一人残ラス敬禮サレマシタ海軍ノ
軍服ヲ附ケタ人ハ敬禮シタ人モアレバセナイ人モアリマシタ凡ソ半
分半分位ト思ヒマシタ敬禮シナイ人ハ多ク分氣カ付カナンダト
思ヒマス其他ノ人ハ一人モ敬禮シマセナンダ「フロックコート」カ「モー
ニングコート」ヲ着テ「シクルハット」ヲ冠テ居ル人カ多數デ中ニハ
制服ノ敬言官モ通リマシタ之等ノ人テ一人トシテ軍旗ニ對シ
テ敬禮シタ人ハアリマセナンダ第三聯隊ノ軍旗ハ古クテ見え
難イテ氣カ付カナンダノカモ知レマセニカ平常カラ軍旗ニ
心ズ敬禮スヘキモノデアルトノ心懸ケカアテ斯ル場合ニ常ニ氣カ
付ケテ通ルト云フ着意ト習慣カアレハ一人モ残ラス欠禮スル
ト云フ様ナコトハアルマイト思ヒマス 高位高官ノ人々ニ然リ
其他ハ推シテ知ルヘレデアリマス、之レハ公ハラク教育カ行キ届カス

結果ダト思ヒマス

(3) 休戦記念日

休戦記念日ト云フテ居リマスカ歐洲大戦ノ記念日デアリマシ
テ軍ニ軍部ノミナラス上下ヲ通ジ全國民ノ記念日デアリマス
倫敦ニ無名戦士墓ト稱スル記念碑カアリマス其他ノ大
都市ニモ同様ノ記念碑カアリマシテ毎年工月十日午前十時
ヲ期シテ関係者參集シテ禮拜シ且全國一般ニ此時刻ヲ期
シ寺院ノ鐘工場ノ汽笛ヲ鳴ラシセテ合圖トシテ二分間靜
止黙禱スルコトニナツテ居リマス 此時動クモノハ只汽車ズケデ
通行人ハ元ヨリ電車モ自動車モ亦靜止スルト云フコトニナツテ
居リマス 私人ニ回此日ニ遭遇シマシテ私自身ノミナラス駐英ノ若
イ連中ニモ手分ラシテ各方面ノ模様ヲ視察サセマシタ
倫敦ノ無名戦士墓ニ於ケル儀式ヲ申シマスレハ當日日白皇帝ハ

白皇族及各省大臣諸將軍其他文武官ヲ從ヘテ臨場セラ
レ軍隊ノ代表部隊モ參列シ大戦間ノ戦死者遺族モ參列
スルデアリマス一九二六年ノ記念日ニ當時恰モ全英帝國會
議中デアリマシタテ各屬領ノ代表者モ悉ク參列シマシテ盛
デアリマシタ午前十時ヲ期シ寺院ノ鐘鳴ルヤ一同二分間ノ黙禱
ノ後皇帝自ラ花環ヲ墓前ニ備ヘラシ以下順々花環ヲ
捧ゲテ式ハ終ルデアリマス一九二六年ノ記念日ノ前ニ揮話
ガアリマシタ

從來此儀式ニ參列スル戦死者ノ遺族ハ其時ニ限リ戦死者
タル夫或ハ父兄又ハ子ニ賜ヒタル勳章ヲ佩用スルコトヲ許
サレテ居タシデアリマス然ルニ政府ハ一九二六年ノ記念日數週
間前達ヲ出シテ右ハ元來勳章佩用規則ニ及ビ從來
ハ只之ヲ黙許スルト云フ形ニテ許シ居タガ今後ハ勳章佩用

規則ヲ嚴守スルノ方針ヲ取ルコトニテカラ本年以降何人モ他人ノ勲章ヲ佩用スルコトヲ禁スル旨布告シタリデアリマス此布告ヲ見ルヤ諸新聞ハ一齊ニ政府攻撃ノ社説ヲ掲ケマシタ其論旨ハ皆同一デアリマシテ要スルニ「時日経過ニ伴ヒ勲モスレバ大戦ニ関スル國民ノ感覺漸次減退弛緩セントスルノ傾向アリテ殊ニ大戦間祖國ノ爲ニ一身ヲ犠牲トセル忠勇ナル又吾人ノ恩人タル戦死者對スル尊敬感謝ノ念薄ラガントスルニ際シ政府ハ率先自ラ軀ヲ垂レテ此等傾向ヲ矯正セザルヘカラサル地位ニ在リテカラス事實ハ之ニ及シ吾人ノ之レベカラザル戦死者ノ可憐ナル遺族ノ一年只一回ナル彼等ノ誇トスル彼等ノ死セル夫或ハ父ノ勲章ヲ佩用スルコトサヘモ禁止シテ前述ノ惡傾向ヲ却テ助長セントスルノ舉ニ出ツト云フデアリマシタ此諸新聞論説ト共ニ

諱難ノ聲諸方面ニ起リマシタデ政府ハ間モナク更ニ布告ヲ出シテ前同ノ達シテ取消シ遺族ハ從來通り當日ニ限り戦死者ノ勲章ヲ佩用シテ差支ナシト云フコトニ致シマシタ私ハ其際ニ於ケル諸新聞ノ態度又其社説ヲ讀ミマシテ所謂感慨無量デアリマシタ

(4) 將校ノ待遇

一般社會ハ將校ニ對シテハ尊敬シテ居リマシテ社會上將校ノ地位ハ勿論上位デアリマス平常ノ文際ノ折デモ大尉以上ニハ必ず官名ヲ附シテ呼ブコトヲ慣習トシテ居リマス之レハ退職者ニ對シテモ同様デアリマス兎ニ角將校ト云ハ現役デモ在郷者デモ社會ハ一般ニ社交上其人ヲ尊敬シ其人ヲ信用スルト云フ風ガリマスデアリマスカラ私共デモ英國デハ何處ニ行ツテモ公然將校ト名乗ルハ万事非常ナ便宜ヲ得旅館

其他ヲ虐待セラル、カ如キコトハ勿論アリマシカ一度名乗ッ
タ上ハ其身分品位ヲ保ツ丈ケノコトハセネバ成リマシマシテ若
イ連甲ニハ苦シイコトモアル様デアリマス

目下在郷將校ハ大戦後ノコト、テ甚ダ多数アリマスカラ社
會ノ各方面デ色々ナ仕事ニ従事シテ居ル様デアリマシテ中
ニハツマラス仕事ヲマツテ居ル者モアル様デアリマスケレトモ右申
述ヘタ様ナ次第デアリマシテ多クハ實社會ノ各方面テ相當
ノ地位ヲ占メラ夫々仕事ヲシテ居ル様デアリマス大キキ會社
々製造所ニ行キマシレハ重役其他ノ上級ノ地位ニ將校ノ居
ナイ處ハ無イ様デアリマス殊ニ兵器類ノ製造會社等デ
ハ上級社員ノ大部分ハ將校デアリマシテ矢張日常ノ談話、
際ニモ對手ハ必ず大尉トカ少佐トカ大佐トカノ尊稱ヲ付シ
呼ニテ居リマス官邊及國會議員等モ多数ノ將校ノ居

リマス目下大臣中ニモ三四名居リマス本件ニ就テ特ニ私
注意ヲ引キマシタ一ニノ例ヲ申述ヘマス

(A) 一昨年ノ總同盟罷業ニ際シマシテ政府ハ對同盟
罷業策實施ノ為全國ヲ九個ノ非常管區ニ分テ
テ各管區ニ夫々代表者ヲ派遣致シマシタ

英國ノ地方行政ハ市及州デマツテ居リマスカ之レハ凡
テ地方ノ自治團體デマツテ居リマシテ中央官權任
命シタ知事ノ如キモノハ居リマセヌ元ヨリ中央政府ト
地方自治團體トノ行政上ノ權限ハ法律デ推テ居リ
マスカ地方自治團體ノ權限内ノコトハ市議會或ハ州議
會^會カ其決議ニ依リテマツテ行クデアリマス從テ工
場都市々鑛工業ノ盛テ州デハ其市或ハ州ノ議會ハ
労働黨カ大多数ヲ占メラ居ルト云フ處モ少クタイノデ

アリマス故ニ對總同盟罷業策ノ實施トナリマスト甲
央政府カラ各地方ノ自治團體ニ訓令ヲ出シテヤラスト
云フ譯ニ行キマセン、ソコデ全國ヲ非常管區ニ分テ之ニ
政府ノ代表者ヲ出シテ其任ニ當ラシムルト云フ必要カ生ス
ルデアリマス

話カ少シ横ニ入リマシタガ兎ニ角政府ハ全國ヲ凡管
區ニ分テ各管區ニハ各省ノ政務次官級ヲ長官トシ之ニ
關係各省ノ役職ヲ附シテ前述ノ非常業務ニ當ラシメ
タデアリマシタ此凡人ノ長官中實ニ七人迄ハ軍令
アッタデアリマス階級ハ大尉カラ中佐迄ニ亘ツテ居リ
マシタ

(B)

一昨年ノ春私ハ秩父宮殿下ノ御伴ヲシマシテ英國ノ西
南地方ノ陸海空軍ノ軍隊學校及根據地ヲ見

學彦、同地方觀光ノ旅行ヲ致シマシタ諸所ノ市
若シクハ州ノ警察部長ガ御機嫌伺ヲ兼ネテ御
警衛ノ打合ニマツテ來マシタ逢フテ見ルト皆大戰間ノ
歴戦者テアル在郷將校ナデアリマシタソコデ倫
敦ニ歸テカラ調ベテ見マシタラ精確ナ數字ハ今
記憶ニテ居リマセヌカ全國各市各州ノ警察部長
ノ内其中中ノ七八迄ハ在郷將校デ残リ、ニニハ警
官上リデアリマシタ之等將校ハ殆ト全部其地方ノ名
門家ノ出デアリマシテ其勤務振ニ於テモ亦地方ト折合
ニ於テモ非常ニ良イト云フコトデアリマス
倫敦ノ警視總監モ陸軍少將デアリマシテ其下ノ
市ノ消防隊司令ハ海軍大佐デアリマス
夫レニ警視總監デモ警察部長デモ政黨ニハ全然

關係シマセンカラ内閣、更迭トハ何等ノ關係モナク
相當長年月ノ間只管ニ警察ノ本務ニミ盡瘁スル
ハ宜シイデ從テ治績モ舉ル様デアリマス

大分色々アコトヲ申上ゲマシタカ要スルニ目下英國民ノ
軍事ナリ軍人ニ對スル態度ハ甚ダ見上ゲタモノデアリマシ
テ之レハ皆國防ハ國民自ラ關與スヘキモノデアル又直接國
防ノ任ニ當ル軍人ハ身命ヲ擲テ祖國ノ防衛ニ任スルデア
ルカラ尊敬スベキモノデアルト云フコトヲ大戦ニ依リテ具ニ體驗
シマシタ結果ニ外ナラヌデアリマシテ其他學校ナリ青少年ノ
訓練ヲ見マシテモ軍隊的ノ色カ甚ダ濃厚デアリマシテ私ハ
我現況ニ較ヘマシテ古來我國ノ誇トセシ「尚武」ノ美風ハ今
日儘ニ英人共ニ奪ヒ去ラレタデアリマシテ痛感シタデアリ
マス

第三、全英帝國ノ現狀

一、概況

全英帝國ハ英本國、印度帝國、自治領、直轄、殖民地及
屬領ヨリ成テ居リマス尚英帝國以外ニ英國ノ勢力ノ及フ
範圍ニ保護領、委任統治地域又勢力範圍等カアリマス
英本國政府内ニテ海外諸領土ノ統治ニ關シテハ既往印度
事務省又殖民地事務省ヲ置キ印度以外ノ諸領土ニ關
スル事項ハ凡テ殖民地事務省ニテ同様ニ取扱テ居タノデア
リマス最近殖民地事務省ヲ自治領及殖民地事務省
ト改稱シ同省内ニ於テ新ニ自治領ニ關スル業務ト殖民地
ニ關スル業務トヲ劃然ニ區分シ自治領次官ト、殖民地次官
トヲ置キテ判然ト分掌セシムルコト、シマシタ之レ自治領ノ
資格又本質ノ向上ニ伴フ自然ノ結果デアリマシテ自治領ト

稱スルハ往時殖民地若シクハ屬領トシテ地方ニ其後自治非
ラ許シタルモノデアリマシテ今日單ニ殖民地ト稱シテ居ルハ
眞ノ意義ヨリ云ハ殖民地及屬領ノ總稱ヲ概シ我國
ノ新領土ニ對スル統治ニ類スル統治ヲマツテ居ルデアリマス
ニ本國ト自治領トノ關係

自治領ト稱スルハセテ古參順序ニ舉ケマスレハ加奈陀濠洲
西新蘭南阿聯邦新コファウンドランド愛蘭自由國六テ
アリマス等自治領ト本國トノ政治的關係ハ從來自治領ニ
内政上自治ヲ與ヘテ居リマシタカ外交ハ全然本國政府ノ專斷
テ處理シテ居タデアリマシタ然ルニ歐洲大戰末期頃ヨリソノ
自治領ノ外交ニ關スル容喙權ヲ認メ講和會議ニハ其代表
者ヲ參列セシメ遂ニ國際聯盟加入國ノ一員トシテ調印セシ
ムルニ至リマシタカ更ニ昨年ノ英帝國會議ニ於テハ本國及各

自治領ハ凡テ資格同等ニシテ自治領ハ實質上完全ニ獨立
ニ只同一ノ皇帝ヲ共同奉戴スルコト云フ事ニ依テ相互精神的
結合ヲ維持シ且依然英帝國國名稱ヲ用ヒルコトニシタデア
リマス

又經濟上ノ關係ニ於テ往時本國ハ自治領ヨリ工業原料及
食料品ヲ輸入シ自治領ハ本國ノ工業製品ヲ輸入シ為ニ都
合ヨリ兩者ノ共同共榮ノ實ヲ舉ケテ居タデアリマシタカ本
國ハ國內ノ生活費ノ廉ナルヲ欲シ且他國ト海外貿易ノ競
爭上製品ノ安價ヲ要シ為ニ安價ニシテ且運賃ノ或ルハクカラス
原料及食料品ヲ取ルコトヲ必要トシ從テ自治領ヨリノ輸入ニ
特別ノ保護ヲ與フルコトヲ得ヌ又各自自治領モ近時其自領
内ノ工業長足ノ進歩ヲ遂ケ且益々自給自足ノ氣運ヲ増進
シテアリマスレテ本國ヨリノ製品ノ輸入ハ漸次減少シ又各自自治

領政府ハ自己領土内ニ於ケル企業ニハ土着人ヲ保護スル政策ヲ取ル爲ノ今日ニテハ本國人カ自治領カラ旨イ汁ヲ吸フト云フ譯ニモ行クヤイテアリマス斯クノ如クシテ本國ト自治領間ノ經濟關係モ甚ク縁遠クナツテ居ルノテアリマス尚本國ニ對スル各自治領ノ感情ヲ約述スレハ大要次ノ様テアリマス

南阿聯邦、今日ニテハ領土内ノ和蘭人種ト英人種トハ殆ト同數テアリマシテ歐洲大戦ヲ經過シテ和蘭人種ノ英國ニ對スル感情モ大分ヨクナツタト云フテ大戦以來本國ヨリノ駐劄軍隊ヲ引揚ケ同地ノ警備ハ全ク南阿聯邦ニ委ヌコトトシテ居リマス及英即チ分離独立ヲ欲スル分子ハ尙相當多數アル様テアリマシテ現政府ハ及英派テアリマス一昨年ノ帝國會議ヲ實質上獨立國トナツタト云フノテ現政府ハ満足ノ意ヲ

表明シシタカ之カ何時迄續クカ疑問ト思ヒマス他日同地ノ産業及經濟更ニ發展シマシタ曉本國ト間ニ何カ利害ノ相及スルコトク起リマスレハ何時分離スルカモ知レマセヌ要スレハ南阿ハ帝國內ノ尤モ危險分子ト思ヒマス

加奈陀、領土内ノ佛人種ト英人種ト殆ト同數テアリマス加奈陀ニハ今日獨立ヲ主張スルモノハ殆トナイ様テアリマス依然英帝國内ニ止マラントスルモノト英國ヨリ分離シテ米國合衆國ニ合併スルヲ可トスト云フモノトニ派カアル様テアリマス今日テハ前者ノ勢ヲカ優勢ナシテ其儘トナツテ居リマスカ米國トノ合併論ハ現政府府與黨タル自由黨内ニハ相當アル様テアリマス故ニ將來英米間ニ事ヲ構ヘル様ナトカアリマスレハ假令加奈陀カ米國ニ就ツカルマデモ英國トシテハ信頼スヘキ味方トシテ加奈陀ヲ見ルコトハ或ハ出來ナイカト思ハルノテアリマス今日米、加、間ニハ公使ヲ

交換して居ります

愛蘭自由國、古來難問題アリシ愛蘭（北部ヲ除ク）最
近本國ヨリ分テ自治領トナシテアリマシテ此國ノ將來ハ尚未
知數ト思ヒマス現政府ハ現状ニ満足シテ居ル様テアリマス昨年
ノ総選舉ノ結果同國議會ノ分野ハ及對黨（リニファエーシ流
ヲ派メルモノテ現状ニ満足セズ）トノ間ニ僅少ノ差ヲ有スルニ過キ
サルコトナリマシタ愛蘭自由國モ昨午米國トノ間ニ公使ヲ
交換スルコトニナリマシタ又愛蘭自由國ヨリハ米國陸軍ニハ
隊附將校ヲ出シテ居リマス英本國陸軍ハ一切將校ヲ出シ
テ居ラヌト云フ有様テアリマス愛蘭自由國モ英米間ニ事
ル場合ニハ英本國トシテハ餘リ頼ニナラヌ國ト思ヒマス
濠洲及新西蘭、共ニ其領土内ノ白人ハ殆ト全部英人ナ
ルト遠ク本國ヨリ離レ而カモ近所ニ日本ト云フ恐ロシキ強國カ

アルト感シテ居ルカ故ニ他ニ比シ本國ニ對スル依頼心強ク從テ
本國ニ取リテハ英帝國內テ尤モ健全ナル分子テアリマス

可ゴアウンドランド、尤モ古イ英國ノ殖民地ト云フ丈ケテ自治
領トシテハ云フニ足ラス微弱ナモノテアリマス

要スルニ今日自治領ハ實質的ニ政治上ニモ經濟上ニモ本國ヨリ
独立シテ居ルノテアリマシテ只英國ナル國カ世界テ名アル舊家テ
アルノテ英帝國ナル名前ノ内ニ在ルコトカ何カニ付ケテ肩身廣ク
又便宜ノコトモアルト云フノテ名前丈ケ從來ノ關係ヲ持續スルト
云フニ過キナイト云フノカ多クノ自治領ノ眞意テアルト思ハレマス
故ニ將來何カ利害ノ著シク及スル事件カ起リマスレハ何時
分離スルヤモ知レナイト思ハル、モノカ少クナイノテアリマス

三、印度ノ統治

印度ハ英帝國内テモ印度帝國ト稱シテ居リマシテ形

上自治領テモナケレハ直轄殖民地テモナク全々別種ノモノヲ
アリマスカ格式ハ自治領同様ニ見テ講和會議ニモ代表者ヲ
出サシメ又英帝國會議ニモ自治領ト同様ニ代表者ヲ出席
セシメテ居リマス然レハ形式上ノコトテアリマシテ統治上ノ實
質ハ直轄ノ殖民地或ハ屬領ト何等選フ處ナク内政モ外交モ
亦國防モ悉ク全然本國政府ノ意志ニ依テヤツテ居ルノテア
リマス故ニ一昨年帝國會議ニ印度代表者ヲ參列セシメタ
ル係ラス其決議文中「本國ト自治領間ノ關係ヲ記シタ
ル後特ニ右ノ關係ハ印度ニ適用セスト明記シテ居ルノテア
リマス

印度ハ今日於テモ英國ノ尤モ重要ナル寶庫ニテアリマシテ而シテ
印度ノ自治ハ直ニ印度ノ独立ヲ招來ニラスカラ英國トシテハ印度
ニ對シテハ其名前乃至格式等外觀上ハ最上級トシテ待遇シテ
居リマスケレトモ實質ニ於テハ自治ヲ與フルコトナク依然屬領
トシテノ統治ヲヤツテ居ル譯ナリテアリマス

四、本國當局ノ海外諸領土ニ對スル内心

各自治領ノ現状前述ノ通りテアリマスカラ英本國トシテハ
自治領ハ餘リ頼ミニナラス頼ム處ハ經濟上ニモ印度其他ノ
直轄ノ領土及殖民地ニ外ナラヌテアリマス而シテ英國ノ富源
トシテハ從來迄ハ印度及馬來ヲ重要視シテ居リマシタカ
最近東阿非利加(舊英領及舊獨領ヲ合併シテ稱ス)内部ノ
調査ヲ終ヘ同地方ハ資源甚ク豊富ニシテ經濟上大ニ有望ナル
ヲ認メ之カ開發ノ計畫アリ其ノ若干ハ既ニ着手シタ様テアリマ
ス即チ今日英本國ニ取リテ英帝國內ニ於テ意ノマニ利用シ
得ル寶庫トシテ尤モ重要視シルハ印度、馬來及東阿非
利加テアリマス之レ即チ英本國政府カ英帝國全体ノ國防トシ

テ埃及及蘇士運河ノ確保ヲ絶對ニ必要アリトシ又錫倫
島及新嘉坡ニ海軍根據地ヲ構築スル理由テアーマニテ遇
此施設ヲ濠洲及新西蘭ノ國防ニ便益ヲ供與スル處カレカ故
ニ此西自治領カ本施設ニカ瘤ヲ入レセニ及シ其他ノ諸自治
領カ之ニ對シ全然無關心ノ態度ヲ示ス以テアーマ
又英本國トシテハ自治領ニハ手ヲ燒イテ居ルノテアーマスカラ
今日以上*自治領ノ數ヲ増スコトハ望ミマスマイシ殊ニ上述ノ寶
庫地方ハ飽ク迄直轄之ヲ自己掌中ニ握テ居ラセニ依ラ既
ニ降坂トナル全英帝國ノ最後ヲ傷ケサラニコトニ極力努
ムルモノト思フノテアーマス

五、埃及ト英國トノ關係

前述ノ如ク全英帝國就中其實庫ト本國トノ交通連
絡及寶庫ノ防護上英國ニ取リテハ埃及ハ最モ重要ナル地

理的關係ニ位置シテ居ルノテアーマニテ同國ハ勿論全英帝國內
ニハアーマセマカ英本國當局トシテハ此意味ニ於テ埃及ヲ尤モ
重要視シテ居ルノテアーマス
埃及ハ一時佛國ノ勢力圏内ニ屬シ後英國ノ勢力範圍ニ移
リマシタカ歐洲大戰迄ハ名前ハ依然土耳其ノ領土トシテア
リマス大戰勃發後間モテ土耳其ノ獨逸側ニ參戰ヲ見ルマ
英國ハ奇貨措クヘカラスト為シ新ニ埃及王朝ヲ擁立シ公然
土耳其ヨリ分離セシメテ獨立國トラシメ且之ヲ英國ノ保護國ト
シテ宣言シタノテアーマス大戰後所謂民族主義ノ勃興ト共
ニ埃及ハ亦之ニ刺激セラレテ完全ナル獨立ヲ企圖シ盛ニ英
國官憲ニ對シテ反抗シマシタノテ英國ハ遂ニ英埃條約ヲ
改訂シテ表面上保護權ヲ撤回シマシタカ埃及ノ位置タル英
本國ヨリ東方屬領就中其實庫トハ重要ナル交通路ニ當

ル關係上セテ放擲スル能ハス依然英本國ヨリ埃及政府ニ
對スル監督機關ヲ置キ且有力ナル軍隊ヲ駐劄セシメテ
實質上保護國ト爲テ居ルノ状態ヲ持續シテ居ルノテ
アリス從テ埃及人ノ及英的感懐ハ毫モ緩和ヲ見ス昨
年モ一騒動ヲ起シ最近亦悶着ヲ起シテ様テアリスカ英
國當局ハ其都度常ニ強硬ナル態度ヲ示シ或ハ兵力ヲ増
派スル等館ノ迫強壓ヲ加ヘテ之ヲ壓伏セントシテ居ル有様ヲ
アリス

今後モ屢シ此種ノ問題ハ發生スルコト、思ヒマスカ何分一方
英國ハ自國ノ必要上埃及及蘇士運河ノ確保ヲ期シ
他方埃及ハ他國ノ西羈絆ヲ脱シテ完全ナル獨立ヲ熱望
シテ居リマスカラ其解決ハ極メテ難問題ト思ヒマス將來
英國ノ斷乎タル決ヘテ完全ニ埃及ヲ壓伏シ終ルカ

或ハ英帝國瓦解シ英國ノ實力衰ヘテ埃及ノ完全ナル獨立
ヲ見ルニアラサレハ眞ノ解決ハ見ナイモノト思ヒマス

第四 最近ニ於ケル英國ノ重要ナル對外關係ノ若干

英國ニ取リテハ歐洲其他ニ對スル幾多ノ對外問題カアリマ
スカ茲ニ唯我國ニ關係アルモノ、ミテ畧述スルコトニ致シマス
一 對支對露關係

一 昨々年來ノ對支問題テハ英國ハスルコトナスコト悉
ク不結果トナリ全然失敗テアリマシタ此結果極東問題ニ關
シテハ日本ト手ヲ握ラネハ何事モ出來ナイトハ當局ハ勿論
一般有識者ノ今日等シク痛切ニ感シテ居ル處ノ様テアリマス
元來一昨々年來ノ對支問題ハ英國トシテ單一純ナル對支
問題トハ考ヘテ居ナイテアリマシテ實ハ對露問題ノ一部ト
思フテ居ルノデアリマス即チ英人特ニ保守黨系ノ人達ノ之ニ
就テ考ヘ居ル處ヲ申述ヘマスレハ其大要ハ次ノ様テアリマス

露國ハ目下英國ヲ目ノ仇トシテ其攻撃ノ重點ヲ英國

二向ケアリ、大戦直後ニ英本國內ノ智識階級ニ對シテ赤化
宣傳ヲ試ミタルモ結果思ハシカラズ依テ其後英本國內ニ
於テハ勞働團體ニ對シテ赤化運動ヲ行ヒ且全英帝國
外及英國ノ政治上若クハ經濟上ノ勢力ノ範圍内ニ魔手
ヲ伸ヒテ内外ヨリ英國ヲ苦シメントシツ、アリ即チ昨年
英本國及壕洲ノ勞働爭議ニ赤露路ノ援助煽動可
リニ露骨猛烈ナルヲ示シ又波斯及阿富汗近年ノ
及英的空氣ハ露國勢力ノ致ス處ニシテ印度ノ北邊ニハ
印度侵略ノ準備着々成リカセ昨春英領ビルマニ
近キ雲南西境ニ近ノ赤色暴動ノ起ルアリ
又一昨年來支那ニ於テハ英國屬領ニ近キ廣東ニ赤色
勢力勃興ニ直接ニ香港ヲ脅カセシノミナラス漸次赤
色ノ手ヲ北方ニ進メ遂ニ長江流域ニ進出シテ多年扶植

ニ同流域ノ英國經濟上ノ勢力及施設ヲ殆ト根底ヨ
リ破壊セリ露國ノ此目的ハ只單ニ支那ノ赤化ニ止マ
ラズシテ寧テ其主ナル目的ハ英國窮メテ即チ其直接ノ
目的ハ支那ニ於ケル英國ノ政治上及經濟上ノ勢力ヲ驅逐
セントスルニアルモ近イテハ赤化勢力ヲ以テ完全ニ印度ヲ
包圍シ且印度内部ニ及英空氣ヲ激成セントスル運動
ニ外ナラス殊ニ昨年冬土都ニ露國土耳其波斯、
阿富汗及支那ノ五國ノ代表者集マリテ何事カ密カニ
談合シタルハ恐ラク露國ノ主張ニ基クニ等五國ノ及英的
協同行爲ノ商議ナルハ斯クテ遂ニ印度ハ赤露路及其
勢力乃至其友邦ニ依リテ包圍ヲ受ケ其内部ノ煽動
ト相俟ツテ印度ヲ危殆ニ導クノミナラス印度ト英本
國トノ交通モ脅威セラル、ニ至ラントス

ト云フニテアリマシテ聊カ誇大ナル杞憂ノ概テハアリマス
全無跡形モナキ心配ナリト断シ去ル譯ニ行クヌ様ニ思ハ
レマス

斯クテ遂ニ昨年初夏英國ハ露國ト國交ヲ断ツニ至リ
マシタ此國交断絶ハ何モ戦争ヲスルト云フ意味テハナク
通商ヲ續クレハ出入自在ナル為危険ナル宣傳ニ堪ヘスト
云フニテアリマス國內ノ極右派中ニ關係諸國ヲ談ラヒ
昔ノ神聖同盟ノ如キモ多ク作リテ露國ヲ孤立ノ窮地ニ
陥ラシムヘト説ク論者モアリマス中マナーハ行カヌ様
テアリマス 勿論露國ヨリ印度等ニ侵寇スレハ英國
モ兵力ヲ以テ之ニ當ルコトハ辞セサルヘク國防トシテハ印度
ノ西北國境ニ對シ尤モ重キヲ置イテ居ル様テアリマス
自ラ進ニテ露國ニ對シ兵力ヲ用フルノ意志ハ毫末モナク

又假リニ保守黨政府ニ斯ノ如キ意志アリトシマシテモ
國內労働者ノ及對テ受ケテ到底實行ハ出來ナイモノ
ト思ヒマス

要スルニ目下英國トシテハ對露問題ニハ妙案ナク全ク
行キ詰リテアリマシテ從來露國ノ煽動ニ對シ抗議シダ
ルモ何ノ効モナキヲ以テ只國交ヲ絶ツト云フニ過キナイ様
テアリマス

元來労働黨ハ露國ト正式ニ通商條約ヲ結ヘヨト云フ
主張テアリマシテ昨夏ノ國交断絶ニ一時大ニ及對テ唱
ヘマシタカ其後穩健ニ労働指導者間ニ露國宣
傳ノ危険ナルヲ段々感知シタ様テアリマシテ労働黨ノ
總會ニハ勿論昨秋ノ全國労働組合總會ニ於テモ其
黨首ノ組合員ヨリ赤色分子ノ驅逐ヲ叫ブノ聲カ相當

ニ大テアツタ様テアリマス併シ勞働者間ニハ赤露ノ主義
カ相當ニ根深ク侵入シテ居リマスカラ黨員組合員ヨリ
之ヲ一掃スルコトハ至難ト思ヒマス

要スルニ英國ニテハ對露問題ハ將來ドリーニタラ良イ
ノカ何人モ確タル成安ホハナイ様ニ感セラレマス

ニ、對米關係

英人ノ米國ニ對スル及感ハ從來カラ相當ニ大テアリマシタ
ンレハ「成リ上リ者カ大キナ顔ヲスルノカ癩タ」ト云フ心理状態
カラ來テ居ルモノト思ハレマス併シ何ヲ云フテモ大戦後米國ハ
債権者テアリマスノテ英人ハ内ベ不快ニ感シテカラモ表面ニ
之ヲ鄭重ニ取扱ヒ政治家ハ勿論新聞紙等ノ論調モ米
國ニ對シテハ餘程言辭ヲ慎重ニシテ居マシタ然ルニ昨夏
「ジュネーヴ」ノ海軍制限會議ニ於テ英米ノ露骨ナル唯合

トナツテ以來英國內ニ於テ可ナリ露骨ニ及米論ヲ公然云
為スル者ク多クナリマシテ新聞論調ハ固ヨリ相當名ル
政治家モ時々無遠慮ナ意見ヲ述ヘ表面ニ於ケル對米態
度ノ大ニ變化シタミナラス内ニ於テモ大戦前ニ對シテ
持テ居タ様ナ感情ヲ米國ニ對シテ有スル者モ少クナイ様
ニ認ラレマシタ或知人ノ如キハ私ノ出立ノ別ニ際ニ「金デハド
ンテモ米國ニ追付ケナイ此儘ニ經過スレハ早晚經濟的ニ益々
米國ヨリ壓迫ヲ受ケル計リテアル又製鐵競争モ彼對
カニ到底張リ合フコトハ出來ナイマルヲ今カヨイ早イコト
ト平素ノ英人堅氣ニ似合ハス頻リニ亢奮シテ云フテ居
マシタ併シ之レハ全ク一時ノ感情論テ如何ニ米國ヲ嫌テモ自
國軍獨テ米國ト事ヲ構フルノ元氣ハ勘定高イ英人ノ
多クニナイモノト思ヒマス

兎＝角 今日英人ノ對米感情ハ大戰以來ノ米國ノ我儘無
遠慮ニ對シ虫ヲ殺シテ居タ我儘カ昨夏ノ「ジュネーヴ」會
議ヲ破裂シタト云フノテアリマシマシク然リトテ自力ノミニス
如何トモスル能ハス當今ハ或リ行キニ委ヌヨリ外ニ致方ハナイ
モト思ヒマス

三、對日感情

前述シマシタ様ナ英國ノ對支、對米ノ關係カラシテ自然
英人ノ對日感情ク良好ニナツテ來ルハ當リ前テアリマス
私ノ歸朝ニ臨ミ參謀本部ノ作戰情報部長ハ熟ク云テ
居リマシタ「對支問題ハ關係列強ノ協同テ行カネハドローシテ
旨ツハ行クナリ然ルニ一昨々年問題ノ發生以來米國トハ
徹頭徹尾協調スルコトヲ得ナクツタ 否米國ハ吾人ト協調
スルノ意カナイノテアル 將來モソ一 デアルト確認シタ故ニ

英國ハ今後是非共日本ト歩調ヲ一ニシテ緊密ナル協調ヲ
保持シ相携ヘテ對支政策ノ實行ニ當ラネハナラナイト思
ツテ居ル此事ハ獨リ當參謀本部ノ考ヘノミテハナイ我外務
省ノ考テアル、我政府ノ考ヘテアル幸ニモ近時東京及北京
ニ於テモ彼我ノ當局者カ互ニ胸襟ヲ開イテ意見ヲ交換シ
緊密ニ協調シツ、アルノ報ニ接シテ喜ニテ居ル次第ナル貴官
御歸朝ノ後モ何卒此点ニ御盡力ヲ乞フコト 此考ハ私ノ
昨夏英國出立時ニ於ケル英國當局ハ勿論英國識者被
ノ代表的考ヘテアルト感ニマシタ
又英人ノ及米感情ヨリ一段ト親日感情ハ助長セラレマシテ
日英同盟破毀ノ流言マラ日英同盟復興論マラヲ屢々聞
カサレマシタ甲ニ新聞等ニ公然セラ戴スモノモ見受テ様
ナ有様テアリマシタ

由來英人ハ他ノカラ利用スルコトカ中々上手テアリマスカラ
今日ノ好感ニ對シテモ氣ハ許セマセヌカ併シ吾々モ進シテ
此好感ヲ旨ク利用スルノ工夫ヲナスコトハ無駄テハナイト思ヒ
マス

私個人ニ取リマシテハ着任當初ハツマラヌゴタゴタモ多少
ナリマシタカ其後前述ノ次第ニテ當局トノ關係ハ誠ニ良好ト
ナリ殊ニ任期ノ終リ頃ニ到ル處大持テニテ仕事ノ上ニモ大衰ニ
好都合ニテ仕合セラ致シマシタ
之ヲ以テ終リト致シマス

